

講義要綱

平成 30 年度

経営学部

イベントプロデュース学科

2016・2015 年度入学生用

< 3 年生・4 年生用 >

東京富士大学



SYLLABUS 2018

講 義 要 綱

SYLLABUS

平成30年度

経営学部イベントプロデュース学科

< 3年生・4年生用 >

東京富士大学

－ シラバスの利用について －

このシラバスは、平成30年度の春学期・秋学期に経営学部イベントプロデュース学科（3年生・4年生）で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学修計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目 次

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜3・4年生＞

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ（再履修）	2～4	2	半期	浮谷 秀一	1
基礎演習Ⅱ（再履修）	2～4	2	半期	浮谷 秀一	3
総合英語Ⅰ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹	5 7
総合英語Ⅱ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹	9 11
英会話Ⅰ（留学生対象）	2～4	1	半期	Janet. Johnson	13
英会話Ⅰ（再履修）	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	15 17
英会話Ⅱ（留学生対象）	2～4	1	半期	Janet. Johnson	19
英会話Ⅱ（再履修）	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	21 23
キャリアデザイン	2～4	2	半期	志塚 昌紀	25
日本語Ⅰ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	27 29 31
日本語Ⅱ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	33 35 37
日本語Ⅲ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	39 41 43
英語Ⅰ	2～4	1	半期	阿部 牧子	45
英語Ⅱ	2～4	1	半期	阿部 牧子	47
英語Ⅲ	2～4	1	半期	阿部 牧子	49
英語Ⅳ	2～4	1	半期	阿部 牧子	51
TOEICⅠ	2～4	2	半期	宍戸カール	53
TOEICⅡ	2～4	2	半期	宍戸カール	55
フランス語Ⅰ	2～4	1	半期	野口 恵子 三富 祐子	57 59
フランス語Ⅱ	2～4	1	半期	野口 恵子 三富 祐子	61 63
中国語Ⅰ	2～4	1	半期	井上 良雄	65
中国語Ⅱ	2～4	1	半期	井上 良雄	67
韓国語Ⅰ	2～4	1	半期	黄 美貞	69

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科〈3・4年生〉

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
韓国語Ⅱ	2～4	1	半期	黄 美貞	71
日本語Ⅳ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	73 75 77
社会学Ⅰ	2～4	2	半期	新嶋 良恵	79～82
社会学Ⅱ	2～4	2	半期	新嶋 良恵	83
法学Ⅰ（憲法含む）	2～4	2	半期	長岐 郁也	85
法学Ⅱ	2～4	2	半期	長岐 郁也	87
心理学	2～4	2	半期	浮谷 秀一 佐藤 恵美 松田美登子	89 91 93
哲学	2～4	2	半期	隅田 浩司	95
現代思想	2～4	2	半期	休講	—
文化人類学	2～4	2	半期	新嶋 良恵	97
文学	2～4	2	半期	網本 尚子	99～108
文章表現法	2～4	2	半期	網本 尚子	109～116
芸術論	2～4	2	半期	休講	—
生命科学	2～4	2	半期	古田 玲子	117
国際関係論	2～4	2	半期	八川 敏昭	119
異文化コミュニケーション	2～4	2	半期	清水 俊樹 藤本 学	121
経営数学	2～4	2	半期	松本 勇樹	123
マネジメント入門	2～4	2	半期	休講	—
コンピュータリテラシー	2～4	2	半期	萩野 弘道	125
ビジネスコンピューティング	2～4	2	半期	鬼木 一直	127
就職特講Ⅰ	3～4	2	半期	野沢 牧子 宮地 由夏	129 131
就職特講Ⅰ（留学生対象）	3～4	2	半期	塩谷由美子	133
就職特講Ⅱ	3～4	2	半期	休講	—
健康と運動Ⅰ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美 西村 卓二	135 137 139
健康と運動Ⅱ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美 西村 卓二	141 143 145
健康と運動Ⅲ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	147 149

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科<3・4年生>

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
健康と運動Ⅳ	2～4	1	半期	井上 航人	151
				田島外志美	153
日本事情（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優	155
				高橋 哲也	157
インターンシップⅠ	2～4	1	認定	小林 寛典	159
インターンシップⅡ	2～4	1	認定	高橋 哲也	161
インターンシップⅢ	2～4	1	認定	高橋 哲也	163
インターンシップⅣ	2～4	1	認定	高橋 哲也	165
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2～4	各1	認定		167

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科〈3・4年生〉

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学概論	2～4	4	通年	円城寺敬浩	169
				名取 修一	171
				藤森 大祐	173
				山口 善昭	175
経営学概論（留学生対象）	2～4	4	通年	小川 達也	177
イベント学概論	2～4	4	通年	奥 正孝	179
サービス産業概論	2～4	4	通年	日野 隆生	181
企業論Ⅰ	2～4	2	半期	円城寺敬浩	183
				渡辺 泰宏	185
企業論Ⅱ	2～4	2	半期	円城寺敬浩	187
				渡辺 泰宏	189
経営管理論	2～4	2	半期	名取 修一	191
経営組織論Ⅰ	2～4	2	半期	山口 善昭	193
				渡辺 泰宏	195
経営組織論Ⅱ	2～4	2	半期	山口 善昭	197
				渡辺 泰宏	199
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	小川 達也	201
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	小川 達也	203
経済学概論Ⅰ	2～4	2	半期	清水 良樹	205
				松田 岳	207
経済学概論Ⅱ	2～4	2	半期	清水 良樹	209
				松田 岳	211
マーケティング概論Ⅰ	2～4	2	半期	花尾由香里	213
				日野 隆生	215
				広瀬 盛一	217
マーケティング概論Ⅱ	2～4	2	半期	花尾由香里	219
				日野 隆生	221
				広瀬 盛一	223
広告論Ⅰ	2～4	2	半期	中尾 孝年	225
				広瀬 盛一	227
広告論Ⅱ	2～4	2	半期	広瀬 盛一	229
イベント戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	井原 久光	231
イベント戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	井原 久光	233
イベントプロデュース論Ⅰ	2～4	2	半期	大山 利栄	235
イベントプロデュース論Ⅱ	2～4	2	半期	大山 利栄	237
イベント企画	2～4	2	半期	奥 正孝	239
イベント演出	2～4	2	半期	休講	—

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科〈3・4年生〉

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
イベント実施・運営論	2～4	2	半期	大山 利栄	241
イベント心理学	2～4	2	半期	休講	—
イベントキャリア基礎	2～4	2	半期	北原 隆	243
イベント法務	2～4	2	半期	佐藤 潤	245
入門簿記Ⅰ	2～4	2	半期	北井不二男	247
				土井 充	249
				福山 倫基	251
				光澤 美芽	253
				村上 翔一	255
入門簿記Ⅱ	2～4	2	半期	北井不二男	257
				土井 充	259
				福山 倫基	261
				光澤 美芽	263
				村上 翔一	265
専門演習Ⅰ	2～4	4	通年	大山 利栄	267
				岡星 竜美	269
				志塚 昌紀	271
専門演習Ⅱ	3～4	4	通年	大山 利栄	273
				岡星 竜美	275
				志塚 昌紀	277
専門演習Ⅲ	4	4	通年	大山 利栄	279
				岡星 竜美	281
				奥 正孝	283
				志塚 昌紀	285
専門特別演習Ⅰ	3～4	4	通年	休講	—
専門特別演習Ⅱ	4	4	通年	休講	—
卒業論文	4	2	通年		287
流通論Ⅰ	2～4	2	半期	深澤 琢也	289
流通論Ⅱ	2～4	2	半期	深澤 琢也	291
消費者行動論Ⅰ	2～4	2	半期	中嶋 励子	293
				花尾由香里	295
消費者行動論Ⅱ	2～4	2	半期	中嶋 励子	297
				花尾由香里	299
経営心理学	2～4	2	半期	佐藤 恵美	301
ヒューマンエラーの心理学	2～4	2	半期	三好 陽介	303
コンテンツビジネス論Ⅰ	2～4	2	半期	山川 悟	305
コンテンツビジネス論Ⅱ	2～4	2	半期	山川 悟	307

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科〈3・4年生〉

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
イベントキャリア開発	2～4	2	半期	北原 隆	309
イベント実習Ⅰ	2～4	2	半期	大山 利栄 奥 正孝 志塚 昌紀	311 313 315
イベント実習Ⅱ	2～4	2	半期	大山 利栄 奥 正孝 志塚 昌紀	317 319 321
イベント実習Ⅲ	2～4	2	半期	大山 利栄 奥 正孝 志塚 昌紀	323 325 327
イベント実習Ⅳ	2～4	2	半期	大山 利栄 奥 正孝 志塚 昌紀	329 331 333
イベント管理会計	2～4	2	半期	大山 利栄	335
イベントメディア論	2～4	2	半期	北原 隆	337
博覧会・展示会	2～4	2	半期	奥 正孝	339
観光・コンベンションイベント	2～4	2	半期	奥 正孝	341
スポーツ・エンタテインメントイベント	2～4	2	半期	佐藤 潤	343
ユニバーサルイベント	2～4	2	半期	休講	—
セールスプロモーションイベント	2～4	2	半期	清水 一郎	345
イベント特講	2～4	2	半期	大山 利栄	347
スマートコミュニティ論	2～4	2	半期	志塚 昌紀	349
レジャー・アミューズメント論	2～4	2	半期	志塚 昌紀	351
ビジネス英語Ⅰ	2～4	2	半期	宍戸カール	353
ビジネス英語Ⅱ	2～4	2	半期	宍戸カール	355
簿記技能Ⅰ（日商3級）	2～4	2	集中	福山 倫基	357
簿記技能Ⅱ（日商2級）	2～4	2	集中	光澤 美芽	359
ビジネス実務法務	2～4	2	集中	休講	—
販売技術	2～4	2	集中	日野 隆生	361

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。

Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。

Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

1：1年生が履修できる科目です。

2：2年生が履修できる科目です。

3：3年生が履修できる科目です。

4：4年生が履修できる科目です。

1～2：1年生・2年生が履修できる科目です。

1～4：1年生・2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

2～4：2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

3～4：3年生・4年生が履修できる科目です。

(注)「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本事情」は、留学生科目です。

教 養 科 目

平成30年度

経営学部イベントプロデュース学科

< 3年生・4年生用 >

東京富士大学

基礎演習 I (再履修)	ウキヤ シユウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar I	必修科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、そして授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのか、そしてレポートや自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけること、これがこの授業の目標です。そして、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える 3 つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える 3 つの実務 IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす 2 つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす 2 つの実務 IQ とは「思考力」と『創造性』です。この 2 つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす 2 つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす 2 つの実務 IQ とは、「協働力」と「主張力」です。この 2 つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法 課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：初回の授業で指示する。

◇参考図書：狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方：根拠に基づく正しい議論のために』
慶應義塾大学出版会、2015年（1,944円）

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、予習課題が提示されますので確実に予習課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

1) 入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

基礎演習Ⅱ（再履修）	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、4年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。PDCAサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	就職試験総論	SPI試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

総合英語 I (再履修)	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と、平易で短い会話表現の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。音声を聴いての部分作文、英文和訳などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は120個のターゲットセンテンスを通して4技能（話す、聞く、読む、書く）の習得を目指したテキストです。各ユニットにおいては、基本の会話表現を無理なく身につけていけるよう、重要表現を6つに絞っています。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
短い会話表現を確実に習得し、スピーキング能力の素地を養う	授業中の対話練習、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各ユニットに配されている単語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	英文における主語の設定	「主語」と「述語」、「語順」を理解する
3	「品詞」ってどんなもの？	代名詞・形容詞・副詞の働きを理解する
4	英文のスタイルは使われる動詞で決まる	基本動詞を含む英文を理解する Part 1
5	英文のスタイルは使われる動詞で決まる	基本動詞を含む英文を理解する Part 2
6	述語動詞の形で時制を決める	現在時制の場合の動詞の形と主語の関係を理解する
7	「それは」と訳さない it と「そこ」と訳さない there	形式的な主語 it と There is/are …構文
8	中間試験	試験と解説
9	[動詞-ing]は「今～している」という意味だけじゃない	進行形と現在分詞の用法を理解する
10	述語動詞の形で時制を決める	基本動詞の過去時制
11	〈前置詞＋名詞〉で表現の幅を広げる	〈前置詞＋名詞〉の形容詞的な働きを理解する
12	〈前置詞＋名詞〉で表現の幅を広げる	〈前置詞＋名詞〉の副詞的な働きを理解する
13	総まとめ	演習問題と解説
14	総まとめ	演習問題と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ Grammar on Target

Chiharu Higuchi / Kaoru Fukutomi 著

ナショナルジオグラフィック ラーニング/センゲージ ラーニング株式会社

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇教科書を忘れた場合、クラスメートにコピーさせてもらうなどして、必ず準備すること。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあるので、持参してください。

総合英語 I (再履修)	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

この講座では、訪日外国人観光客に英語で対応する際の基本的な表現やビジネス関係の表現を学びながら、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。近年の訪日外国人客の急増にともない、日本では英語による適切でスムーズなコミュニケーションを図ることが、ますます必要とされています。国内でそうした外国人の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを理解することを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit 1 : Transportation	交通案内
3	副 : Purpose of a Contact	訪問の目的を告げる
4	Unit 2 : Check-in Counter	ホテルでのチェックイン
5	副 : Meeting First Time	初対面をする
6	Unit 3 : Facilities & Services	ホテル内の施設やサービス案内
7	副 : Business Card	名刺を渡す
8	Unit 4 : Giving Directions	街歩きのための道案内
9	副 : Transferring a Call	電話をつなぐ
10	Unit 5 : Recommendations	観光スポットを薦める
11	副 : Phone Troubles	電話のトラブル
12	Unit 6 : Dining in Japan	日本食の紹介①
13	副 : At the Airport Abroad	海外の空港にて
14	前期のまとめ	まとめおよび総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ 主教材：上杉恵美・阿部佳・渭東史江・神末武彦・松島康彦・Jacob Schere 著
Hospitality on the Scene - 現場から学ぶ観光英語の実践レッスン
金星堂 2018年
- ◇ 副教材：新田亜紀子著 English for Business Communication 南雲堂 2018年

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

総合英語Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と、平易で短い会話表現の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。音声を聴いての部分作文、英文和訳などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は120個のターゲットセンテンスを通して4技能（話す、聞く、読む、書く）の習得を目指したテキストです。各ユニットにおいては、基本の会話表現を無理なく身につけていけるよう、重要表現を6つに絞っています。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
短い会話表現を確実に習得し、スピーキング能力の素地を養う	授業中の対話練習、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各ユニットに配されている単語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	否定文や疑問文はどう表現する？	否定文と疑問文を理解する
2	助動詞が表すニュアンスの違い	助動詞の働きを理解する
3	丁寧な依頼や勧誘には would と could を使う	助動詞 would と could の特別な意味合いを理解する
4	形容詞や副詞を使って比較する	比較表現を理解する
5	接続詞が果たす役割とは？	文と文をつなぐ
6	〈to + 動詞の原形〉が表す意味	to 不定詞の基本的な 3 用法を理解する
7	中間試験	試験と解説
8	〈to + 動詞の原形〉を用いる構文とは？	to 不定詞を用いた応用表現を理解する
9	[動詞-ing]が表す意味とは？	現在分詞と動名詞の違いを理解する
10	過去分詞の働きとは？	過去分詞と受動態
11	過去～現在へと続く時制の感覚をつかむ	現在完了の用法と意味合いを理解する
12	音読	未定。一回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ Grammar on Target

Chiharu Higuchi / Kaoru Fukutomi 著

ナショナルジオグラフィック ラーニング/センゲージ ラーニング株式会社

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇教科書なしで出席した日の平常点は0（ゼロ）点とします。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあるので、持参してください。

総合英語Ⅱ（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、訪日外国人観光客に英語で対応する際の基本的な表現やビジネス関係の表現を学びながら、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。近年の訪日外国人客の急増にともない、日本では英語による適切でスムーズなコミュニケーションを図ることが、ますます必要とされています。国内でそうした外国人の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを理解することを目標とします。

この講座は「総合英語Ⅰ（再履修）」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit 7 : Dining in Japan	日本食の紹介②
3	副 : Making Requests	丁寧に依頼する (メール・電話)
4	Unit 8 : Arranging a Tour	国内旅行の手配
5	副 : Telephone Messages	伝言を承る・残す
6	Unit 9 : Staying at a Ryokan	旅館について
7	副 : Making Inquiries	問い合わせをする
8	Unit10 : Culture in Japan ①	日本文化体験①
9	副 : Making Appointments ①	アポを取る
10	Unit11 : Culture in Japan ②	日本文化体験②
11	副 : Stating Requests	はっきりと要求を述べる
12	Unit12 : Japanese Souvenirs	ショッピング
13	副 : Making Apologies	お詫びをする
14	秋学期のまとめ	まとめおよび総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ 主教材 : 上杉恵美・阿部佳・渭東史江・神末武彦・松島康彦・Jacob Schere 著
Hospitality on the Scene - 現場から学ぶ観光英語の実践レッスン
金星堂、2018年
- ◇ 副教材 : 新田亜紀子著 English for Business Communication 南雲堂、2018年

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

英会話 I (留学生対象)	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation I	必修科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1 – 3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1 – 3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations:Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Units 4 & 5	Review points, vocabulary and grammar.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 I (再履修)	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	品詞と語順	名詞、動詞、形容詞、副詞の文中での役割を理解する
3	be 動詞	First Day of Class
4	一般動詞の現在形	I Love Bread
5	可算名詞/不可算名詞	Pizza Time
6	代名詞	Not Just a Baker
7	一般動詞の過去形	What's Wrong With Hitomi?
8	中間試験	試験と解説
9	進行形	It Won't Hurt
10	時と場所を表す前置詞	I Feel Healthy Already
11	未来形	Small Talk
12	現在完了形	Weight Down, Power Up
13	総まとめ	演習問題と解説
14	総まとめ	演習問題と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著、金星堂

【履修条件等】

◇英会話は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I (再履修)	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらにビジネスの場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : Introduction	初対面のあいさつ
3	(continued)	自分の仕事内容を説明する
4	Unit 2 : Telephone Calls	電話の応答
5	(continued)	電話で伝言を受け付ける
6	Unit 3 : Making an Inquiry	電話での問い合わせ
7	(continued)	商品や金額についての問い合わせに対応する
8	Unit 4 : Making an Appointment	約束の取り付け
9	(continued)	一度入れたアポを変更してもらう
10	Unit 5 : Receiving a Visitor	受付での来客対応
11	(continued)	空港で訪問客を出迎える
12	Unit 6 : Invitations	接待
13	(continued)	初対面の客に対応するスモールトーク例
14	春学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. Successful Office English. Cengage Learning. 2018年

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備しておくこと。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

英会話Ⅱ（留学生対象）	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音を今一度見直してみましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	比較級/最上級	It's Nice … And
2	接続詞	Hitomi Wants a New Look
3	動名詞/不定詞	Shopping for Clothes
4	疑問詞	I'm Meeting a Friend
5	助動詞	Date Night
6	受動態	It's Party Time
7	中間試験	試験と解説
8	関係代名詞	レポートの提出
9	関係代名詞	演習問題
10	仮定法	宝くじが当たったらなあ
11	仮定法	演習問題
12	音読	未定。一回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【履修条件等】

◇英会話は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度始め（4月）に購入しておくようにしてください。

英会話Ⅱ（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらにビジネスの場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

この講座は「英会話Ⅰ（再履修）」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 7 : Presentations 1	プレゼン開始時のあいさつ
3	(continued)	商品の概要を説明する
4	Unit 8 : Presentations 2	新製品の紹介
5	(continued)	商品の特徴を際立たせる形容詞を用いる
6	Unit 9 : Presentations 3	プレゼンの締めくくり
7	(continued)	質疑応答での英語表現
8	Unit10 : Online Meetings	ビデオ会議
9	(continued)	相手に自分の意見を伝える
10	Unit11 : Negotiations	価格交渉
11	(continued)	支払い条件を確認する
12	Unit12 : Placing an Order	商品の発注
13	(continued)	発注内容の変更を打診する
14	秋学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. Successful Office English. Cengage Learning. 2018年

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備しておくこと。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

キャリアデザイン	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする。	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする。	25%
評価の方法 授業時の課題75点（出席点含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	学生生活を充実させる①	自身の価値観と職業興味から選択肢を広げる
3	学生生活を充実させる②	海外留学のメリットと本学の留学制度
4	ライフプランの検討	20代、30代を見据えたキャリアプラン
5	自己分析	雇用のミスマッチを防止
6	就職試験対策①	SPI 試験について
7	就職試験対策②	服装・ビジネスマナー
8	資格取得	資格取得を目指してキャリアプランを深める
9	大学生活と将来のつながり	大学生活と社会人生活の違いを理解する
10	ゼミ大会	
11	人生で必要なお金	お金の視点でキャリアプランを考える。
12	内定者報告会	内定が決まった4年生による報告会
13	働くとは何か	職業とキャリア
14	働く人の権利	労働法初歩
15	まとめ・テスト	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

日本語 I (留学生科目)	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language I	必修科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

<p>日本語 I (留学生科目)</p>	<p>コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典</p>
<p>Japanese Language I</p>	<p>必修科目 / 半期 / 2 単位</p>

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

<p>日本語 I (留学生科目)</p>	<p>シオタニ ユミコ 塩谷 由美子</p>
<p>Japanese Language I</p>	<p>必修科目 / 半期 / 2 単位</p>

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJTビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	B J T ビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	BJT ビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
◇意欲を持って学習に取り組むこと。
◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJTビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	B J T ビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation Basics I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。辞書機能を授業で活用することもあります。

writing は、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。また、正確に発音できるように、別教材を使って発音の練習をします。この機会に自信の発音を聴き直し見直しましょう。

英語を「いち」からやり直したいから本科目を取ろうとしている学生は、授業外での勉強にも多くの時間をかける覚悟をしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフィティングによって評価。パラグラフィティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%

評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	WRITING	The Sentence/ Capitalization/ Writing about holidays ・音読練習
3	READING	Birthdays around the World ・音読練習
4	WRITING	The Paragraph/ Writing about your birthday ・音読練習
5	READING	Venice/ A Changing City ・音読練習
6	WRITING	Adjectives/ Writing about a City ・音読練習
7	READING	Life Is Good in Iceland ・音読練習
8	WRITING	Adjectives/ The Comparative Form of Adjectives/ The Superlative Form of Adjectives/ Writing about one's country ・音読練習
9	READING	GO to Sleep! ・音読練習
10	WRITING	Using when/ Writing about sleep habits ・音読練習
11	READING	Laughing Out Loud ・音読練習
12	WRITING	Writing about laughing ・音読練習
13	パソコン（WORD）を使って 清書	パソコンルームでパラグラフィティングの原稿を 清書し、プリントアウトして提出する
14	音読	発音、聞き取りやすさの評価を行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確 認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together (third edition)

著者：Milanda Broukal 出版社：CENGAGE Learning

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を読み、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で読解力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation Basics II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。辞書機能を授業で活用することもあります。

writing は、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、正確に発音できるように、別教材を使って発音の練習をします。この機会に自信の発音を聴き直し見直しましょう。

本講義は「英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物、本試験によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフィティング、本試験によって評価。パラグラフィティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%

評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明等 音読練習
2	READING	What to Name the Baby, 音読練習
3	WRITING	Count Nouns and Noncount Nouns/ Writing about a special day
4	READING	Eat, Drink, and Knows the Customs, 音読練習
5	WRITING	Prepositions/ Prepositional Phrases/ Writing about a meal
6	READING	Hold Your Nose and Eat, 音読練習
7	WRITING	Writing Instructions/ Writing about a favorite food
8	READING	The World's Most Popular Drink, 音読練習
9	WRITING	The Pronouns it and them/ Writing about a favorite drink
10	READING	Dinner Fresh from the Freezer, 音読練習
11	WRITING	Comparing Things with as ... as/ Writing about microwave
12	READING	The Shepherd's Boy, 音読練習
13	WRITING	Paraphrasing/ Writing a fable
14	WRITING	パソコンルームで WORD を使ってライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together (third edition)

著者：Milanda Broukal 出版社：CENGAGE Learning

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を一読し、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始め（4月）に購入しておくようにしてください。

英語Ⅲ	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。そのために辞書を効果的に活用することを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する。辞書を活用できる	小テスト、提出物によって評価。 授業中の発言によって評価する。	30%
400字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	英語は世界共通語	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	英語は世界共通語	英作文・ディスカッション
4	ハンバーガーの生い立ち	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ハンバーガーの生い立ち	英作文・ディスカッション
6	インターネットの発達	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	インターネットの発達	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	甘い飲み物	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	甘い飲み物	英作文・ディスカッション
11	国内旅行	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	国内旅行	英作文・ディスカッション
13	世界で最も幸せな国	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	世界で最も幸せな国	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自が本などで調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

英語IV	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。本講義は「英語Ⅲ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。 授業中の発言によって評価する。	30%
400字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	Fast Food and Health	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	Fast Food and Health	英作文・ディスカッション
4	Shopping on the Internet	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	Shopping on the Internet	英作文・ディスカッション
6	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	未定	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	未定	英作文・ディスカッション
11	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	未定	英作文・ディスカッション
13	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	未定	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自が本などで調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

◇6回目以降のテーマは、受講生の興味関心も踏まえて決定します。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

TOEIC I	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Activity12	In the Office (grammar, tag & negative questions)
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要な英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がること	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験 (試験問題の解説)

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<h1>フランス語 I</h1>	<small>ノグチ ケイコ</small> 野口 恵子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。 習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	アルファベ、つづりと発音、日本語の中のフランス語
2	「私はマリーです」	つづり字記号、リエゾンとアンシェヌマン、名を名乗る
3	「お元気ですか」	挨拶、「はい」「いいえ」
4	「ありがとう」	お礼・お詫び、数字1～20
5	「コーヒー1つお願いします」	不定冠詞、名詞の性と数
6	「それはポールの本です」	定冠詞、部分冠詞
7	「音楽が好きです」	第1群規則動詞 (-er)
8	「ミシェルはテレビを見ません」	否定文
9	「私は学生です」	動詞 être、職業・国籍の言い方
10	「辞書を持っています」	動詞 avoir、数字20～60
11	「黒い上着を着ています」	疑問文、形容詞の位置・語尾変化
12	「今2時半です」	時刻の言い方
13	「パリに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約①、曜日と月の名前
14	「学校に来ます」	動詞 venir、前置詞と定冠詞の縮約②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語 I	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」と合わせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションの付け方等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<フランスについて>	・アルファベ、綴り字の読み方
2	<フランス語の発音>	・フランス語10単語を覚える
3	Leçon 1 <自己紹介 1 > ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数 1～10
4	Leçon 2 <自己紹介 2 >	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・数11～20
6	Leçon 3 <カフェで>	・飲み物、食べ物名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする	・否定形「私は～人ではない」
8	・何語を話すか言う	・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
9	Leçon 7 <好みを言う>	・動詞 aimer
10	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11	Leçon 4 <兄弟姉妹について>	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
12	・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業、言語）、音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

フランス語Ⅱ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章での確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「働くつもりです」	動詞 aller の復習、近接未来
2	「食べたばかりです」	動詞 venir の復習、近接過去
3	「ペンをお持ちですか」	疑問文の作り方
4	「私の姉は優しいです」	所有形容詞
5	「私は仕事を終えます」	第2群規則動詞 (-ir)、動詞 partir
6	「宿題を終わらせなさい」	命令形、数字60～
7	「なぜフランス語を勉強しているのですか」	疑問詞 quand、où、comment、pourquoi、qui、que
8	「全部でいくらですか」	動詞 faire、prendre、買い物をする
9	「何をしましたか」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
10	「映画に行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）
11	「どの季節が好きですか」	疑問形容詞 quel、動詞 préférer、vouloir、pouvoir
12	「5時にホテルに着かなくてはいけません」	動詞 devoir、電話をかける
13	「クレールはフランソワーズより背が高い」	比較級
14	「ジャンヌはクラスで一番活発な子です」	最上級、空港での会話
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<春学期の復習> <天候の表現> Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか?」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 en を使って答える
4 5	Leçon10<誘う> ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 on 「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 +冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか?」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11<一日の過ごし方> ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」(代名動詞) 「普段は、～時に起き、～時に家を出、 ～時に帰宅します」
10 11	Leçon13<レストランで(1)> ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 avoir 「選びましたか?」
12	口頭試験および解説	授業中練習した会話(朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う)をペアで行う
13	Leçon13<レストランで(2)> ・料理の感想を言う Leçon14 ・過去について語る	・料理の感想を言う(半過去) 「美味しかったです」 ・複合過去(1)助動詞 avoir 「昨日何をしましたか?」
14	Leçon14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2)助動詞 être 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇「フランス語 I」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説(音節、母音、子音、声調、ピンイン)
3	発音について(2)	発音練習(数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前)
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定+否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語 I」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語 I」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

韓国語 I	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

韓国語は、日本語と多くの共通性を持った言語であることから、日本人にとって最も親しみやすく、学びやすい外国語であるといわれています。この授業では、韓国語の文字であるハングルや基礎文法、会話文について体系的に学習していきます。

授業のスタイルは、一方的に教えるのではなく、学生同士で韓国語による自己紹介や挨拶文を交わすロールプレイを行ったり、作文・発言を促したりすることで文法を理解し、日常で使う表現を中心に楽しく学んでもらうことを心がけます。韓国語のみならず、授業を通じて、韓国の社会や文化についても理解を深めることを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
韓国語の特徴を理解し、文字を覚え、発音ができる	ハングル（文字）の「読み」、「書き」ができるか、自分の名前や日本の地名をハングルで表記できるかを評価する。	30%
自己紹介や挨拶文、疑問文、否定文などの簡単な文章が言える	自己紹介・挨拶などを韓国語で話すことができるかを評価する。	30%
基礎文法を身につけ、簡単な作文や読解、聞き取りができる	基礎文法を理解し、日常で良く使う語彙を覚え、応用でき、韓国語で発言し、聞き取りや作文ができるかを評価する。	20%
韓国の社会や文化を理解し、韓国語でコミュニケーションできる	韓国語を通じて韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	韓国語の特徴	文の構成、文字について
2	日本語との共通点	基本母音・基本子音、
3	ハングルの構成、発音	終声子音、複合母音、書き順、
4		発音、漢字の読み方、文字のまとめ
5	自己紹介、挨拶文、	自己紹介や挨拶文、基本文「～は ～です」、
6	基本文、疑問文	疑問文「～は ～ですか」、主語、述語
7	否定文、助詞、代名詞、	否定文、日本語のこそあど言葉、助詞、代名詞、
8	～する動詞	～する、します動詞
9		
10	一般動詞や形容詞の	～する動詞以外の一般動詞、基本動詞の語尾変換のルール、
11	語尾変換	形容詞、用言の丁寧文、語幹と語尾
12	ㄹ体の用法、漢数字	ㄹ体のルールや変化、体言のㄹ体、漢数字
13		
14	時間と時刻表現 春学期のまとめ	時間や時刻に関する表現、固有数字、これまでに習った文法や語彙のまとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇韓国語や韓流ジャンル（K-POP、料理、ドラマなど）に興味を持っている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇学ぶ心を持つこと。

◇授業のマナーを守ること。

◇遅刻、欠席をしないこと。

韓国語Ⅱ	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「韓国語Ⅰ」で学んだ文法や語彙を復習・確認しながらステップ・アップし、日常表現を中心に基礎会話や基本文法・文型・語彙を身につけることができます。「韓国語Ⅰ」の表現を応用し、やや長めの文章や会話文を駆使することができ、韓国語検定試験の5級に合格できるレベルまで進むことができます。

「韓国語Ⅱ」を通してより深く韓国語や韓国文化に触れることができるよう、韓流音楽や食文化の紹介もしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
各回で学習した内容を理解し、スムーズに「読み」、「書き」、「話す」ことができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
基本文法を身につけ、日常で使う表現を学び、初級レベルの韓国語ができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
語彙の習得や応用力をつけるためにテキストの練習問題を学習できる	テキストのほか、毎回の授業で紹介する語彙や表現を覚え、練習問題を自ら解くことができるかを評価する。	20%
授業を通じて韓国の社会や文化についてより深く理解し、韓国語で積極的にコミュニケーションできる	韓国語を通じて、韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「韓国語 I」の復習、試験の解説
2	敬語表現	尊敬形、敬語の過去形、敬語の特殊な例
3	用言の否定形	動詞や形容詞の否定文、仮定表現
4	まとめと復習	敬語表現、否定形のまとめ、応用編、復習
5	過去形(1)	用言の過去形とそのパターン
6	過去形(2)	過去形の応用パターン、過去形のまとめ
7	勧誘表現	動詞の勧誘形、位置関係の表現
8	現在進行形	用言の現在進行形、丁寧な命令表現、過去形、勧誘表現、現在進行形のまとめ、復習、韓国語のバースデーの歌紹介
9	まとめと復習	
10	可能・不可能形	「～できる、できない」といった可能・不可能を示す表現やパターン
11	意志表示の表現	願望の意志を示す表現
12	禁止を示す表現	禁止（～しないでください）表現、許諾を尋ねる際の表現
13	義務を示す表現	「～しなければならない」といった義務を示す表現
14	意志・推量を示す表現 秋学期のまとめ	用言の意志や推量に関する表現 これまでの学習を振り返って、まとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇「韓国語 I」を履修した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇授業に対して熱意を持つこと。

◇遅刻、欠席をしないこと。

日本語Ⅳ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

就職活動を意識して、日本の言語文化を学び、自己表現を訓練する。

他人に与える印象も含め、自分を客観的にみること、さらにそれをどのように表現するかを考える。また、その中で、分析、統合、総括、表現へと、基本的な考え方を学んでいく。

語彙表現が与えるイメージを中心に、人物評価の語彙表現、日本人の考え方・感じ方を学ぶ。また、時間内に簡潔に述べるようになることを目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相手との関係で表現を考える。効果的な表現方法を学ぶ	書いたものを自分で客観的にチェックし、相手に与える効果を意識できているか、書いたものから評価する。	25%
性格等を表すための語彙・表現を学ぶ	語彙の意味・用法を知り、場に応じて使えるかどうか、小テストを実施予定。また、書いたものから評価する。	15%
分析したことをまとめ、表現する	自分の来し方を振り返り、自分を再評価、相手に伝わる表現となっているか、書いたものから評価する。	25%
就活に使える長所短所の述べ方を学ぶ	作文を暗記するのではなく、自然な話し言葉で、限られた時間の中で、必要十分な表現で口頭発表ができたかどうかを評価する。	25%
評価の方法	授業態度、参加度も評価の対象となる。 授業態度・参加度10%、客観的な表現25%、語彙表現の定着15%、的確な表現25%、口頭表現25% 出席が3分の2に満たない場合には単位は与えられない。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	自己紹介	なぜ自己紹介なのか、表現するとは
2	いい自己紹介	自己紹介の目的、就活とは
3	長所短所	短所についての表現
4	自己分析	自分を客観視する
5	語彙 1	性格についての表現
6	語彙 2	語の価値
7	語彙 3	自分を表現できる語彙
8	エピソード	自分の性格を裏付けるエピソード
9	ブレインマップづくり	長所短所とエピソード
10	アウトライン作成	内容の適否を検討、アウトライン作成
11	作文	400字程度の長所短所についての作文
12	フィードバック	書き直し
13	口頭発表の準備	アウトラインに基づいて口頭発表の準備をする
14	口頭発表	時間内での発表を目指す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけでなく、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

日本語Ⅳ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」で身につけたビジネス場面での基礎的な日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。模擬的なビジネス場面を想定し、簡易な企画立案、プレゼンテーションの課題に取り組む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかどうかを評価する。	30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。	40%
ビジネス課題の達成	簡単な企画立案、プレゼンテーションができること。	30%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題30%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、発表の日本語導入
2	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－①
3	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－②
4	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－③
5	ビジネス日本語演習	演習 1－①
6	ビジネス日本語演習	演習 1－②
7	ビジネス日本語演習	演習 1－③
8	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－①
9	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－②
10	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－③
11	ビジネス日本語演習	演習 2－①
12	ビジネス日本語演習	演習 2－②
13	ビジネス日本語演習	演習 2－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇欠席せず、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

日本語Ⅳ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

卒業後の日本での就職、あるいは日本企業に関連した職場での仕事を想定して、ビジネス日本語の表現および日本のビジネスマナーやビジネス習慣を学ぶことを目的にした授業である。視聴覚教材を使用してビジネス場面特有の語彙・表現を学習しながら、ビジネスマナーや習慣についても悪い例・良い例を視覚的に見て具体的に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
敬語の形式を習得し、場面ごとの適切な待遇表現が使えるようにする	授業中の小テストで評価する。	15%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、適切なビジネス日本語表現ができるようにする	提出された課題の完成度と本試験によって習熟度を評価する。	課題15% 本試験のうち 70%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、場面に合わせた適切な行動をとれるようにする	本試験によって習熟度を評価する。	本試験のうち 30%
<p>評価の方法 受講態度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画
2	日本の就職活動①	日本の大学生の就職活動の具体的例（前半）
3	日本の就職活動②	日本の大学生の就職活動の具体的例（後半）
4	ビジネスマナーの基本	ビジネス習慣などの基本マナー
5	敬語①	敬語の種類と形
6	敬語②	場面ごとの待遇表現
7	ビジネス文書①	種類、文体、書式の基本
8	ビジネス文書②	いろいろなビジネス文書の形式
9	電話の受け方①	電話対応の基本と表現
10	電話の受け方②	電話取り次ぎ、伝言の方法
11	電話のかけ方	電話をかけるときの基本的表現とマナー
12	訪問のマナー	受付、名刺交換などのマナーと表現
13	応接のマナー	応接の習慣と表現
14	日本のビジネススタイル	ビジネス習慣の違い
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

◇参考図書：株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語 テキスト①内定者編』株式会社日本映像教育社
株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語 テキスト②新入社員編』
株式会社日本映像教育社

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題として基本会話表現を想定して会話シートを完成してこよう。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は受講人数、大学内行事日程などを勘案して変更することがある。

社会学 I BPE-A	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Sociology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

「社会学 I BPE-A」または「社会学 I BPE-B」どちらか1つに登録してください（2つ登録することはできません）。

みなさんは日常生活を送る中でたくさんの不思議や困難に出会うと思います。そうした思いは、多くの場合「私」の在り方を規定しようとする力との出会いから生まれています。この授業ではそうした、「私」の在り方を決めつけてくる「他者」や「常識」など、「当たり前」を押し付けてくる力について考えていきます。同時に、「私」という個人から出発して「社会」について考える研究アプローチについて学び、他者との関わり合いの中で立ち現れる社会について、多層的な視点から捉える素養を養うことを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う（予定では2回）。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「私」の形成
2	個人と社会	「常識」とは？
3	準抛集団	どこに属するのかという問題
4	相互作用(1)	パフォーマンスする「私」
5	相互作用(2)	役割を期待されること
6	相互作用(3)	他者から学ぶ
7	階級(1)	スクールカーストから考えてみよう
8	階級(2)	ここまでのまとめ
9	境界線(1)	私／他を分断する力とは
10	境界線(2)	人種・民族・エスニシティ
11	境界線(3)	定義づけることの力
12	アイデンティティ	「私」と「社会」の関係
13	マス・コミュニケーション	マス・コミュニケーションの力
14	社会学的方法	社会学の方法論について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。
- ◇藤田弘夫、西原和久(著)『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ教科書として指定はしませんが、参考にとすると理解に役立つでしょう。

【履修条件等】

- ◇「社会学 I BPE-A」または「社会学 I BPE-B」どちらか1つに登録してください（2つ登録することはできません）。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

社会学 I BPE-B	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Sociology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

「社会学 I BPE-A」または「社会学 I BPE-B」どちらか1つに登録してください（2つ登録することはできません）。

国や地域の境界を越え、世界中に情報の網が広がる現代では、人びとはどのようなつながりを持ち、社会を形成しているのだろうか。人びとの関係や結びつきを支えているのが、情報の伝達や交換、そして人や物の移動である。そのため、情報化の歴史を知ることは、主として生活についての理解や、人と社会の関係について知ることもである。この授業では、特に<メディア>を中心概念として、解説していく。目標としては、私たちが普段何気なく暮らしている情報化された社会そのものについて再定義し、今後の情報化の展開についても主体的に考えることが出来る素養を身につけることを掲げている

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う（予定では2回）。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「情報化社会」とは
2	情報と社会	相互依存ネットワークとしての社会
3	マス・メディア以前	メディアは何をもたらしたか
4	新聞の普及	社会と新聞メディア
5	映画・ラジオの登場(1)	受動的大衆 弾丸効果
6	映画・ラジオの登場(2)	プロパガンダ
7	テレビの登場	限定効果モデル
8	ソフトな文化権力としてのテレビ	強力効果モデル
9	メディアと国民意識	マス・メディアと国家
10	劇場社会の登場	劇場としてのメディア
11	民主主義の崩壊(1)	二分化する社会
12	民主主義の崩壊(2)	フェイクニュース
13	Web社会(1)	メディア利用の問題点
14	Web社会(2)	可能性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。
- ◇津田正太郎著『メディアは社会を変えるのかーメディア社会論入門』世界思想社
教科書として指定はしませんが、参考にすると理解に役立つでしょう。

【履修条件等】

- ◇「社会学 I BPE-A」または「社会学 I BPE-B」どちらか1つに登録してください（2つ登録することはできません）。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

社会学Ⅱ	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Sociology II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、社会のありようが個人にどのようにかかわっているのかという問いを軸に、社会の自由と拘束性について考察していく。とくに、資本主義社会についての先行する研究について学ぶ。半期の授業を通して、社会学の基礎的な概念に触れ、それらが身近な問題とどう結びついているかについて考えてみよう。こうした試みを通して、現代社会の問題についてさまざまな視点から捉えようとする社会学的思考の育成を目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「社会」が「私」を決定する？
2	個人とシステム	個人的アイデンティティと集団的アイデンティティ
3	共同体(1)	家族
4	共同体(2)	コミュニティ
5	共同体(3)	大衆社会
6	共同体(4)	国家
7	経済(1)	資本主義と疎外 マルクス
8	経済(2)	資本主義と合理化 ヴェーバー
9	経済(3)	経済構造と人
10	グローバル化(1)	合理化と全体主義
11	グローバル化(2)	グローバル資本主義 流動化する社会
12	現代社会の問題(1)	格差社会と自己責任
13	現代社会の問題(2)	ヘイトスピーチ
14	現代社会の問題(3)	テロリズムと西欧社会
15	総括・達成度の確認	総括およびテストを実施する

【使用教材】

◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。

社会学にとくに興味のある方は持っているといいかと思います。

◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

◇「社会学Ⅰ」を受講した上で受けることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

法学 I (憲法含む)	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law I	選択科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう人も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律問題に対して自らの視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	40%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	
2	法学	近代社会における法の意義
3	法学	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権（平等権、自由権）
6	憲法	基本的人権（社会権、受益権）
7	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
8	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
9	行政法	地方公共団体の法
10	民事法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
11	民事法	会社の組織、取引関係における法の役割
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割及び裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業を進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

なお、参考文献は以下のとおりです。

碧海純一著『法と社会（中公新書）』中央公論新社、1967年

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	ディスカッションを通じて民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実にあてはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の見点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容及び授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	売買契約の成立、契約自由の原則
4	契約(2)	契約の分類、契約の有効性
5	契約(3)	公序良俗違反、一般条項、強行規定・任意規定
6	契約(4)	債務不履行、強制履行、解除
7	契約(5)	債務不履行、損害賠償
8	不法行為(1)	過失責任主義・無過失責任主義
9	不法行為(2)	損害賠償、立証責任
10	所有権(1)	物権・債権の峻別、物権法定主義
11	所有権(2)	所有権の取得・制限
12	所有権(3)	対抗問題、非典型担保
13	事例研究(1)	日常生活のトラブルにどのように法がかかわるのか
14	事例研究(2)	日常生活のトラブルにどのように法がかかわるのか
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

心理学	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明してきた人間の心理と行動の特徴についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間の心理を理解するために必要な基礎的な領域（発達心理・整理心理・認知心理・適応心理・学習心理）を解説します。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達とその特徴について理解すること	発達に影響する要因を理解することと発達段階の特徴を理解できているか評価する。	45%
生理心理のメカニズムを理解すること	生理心理のメカニズムを理解できているかで評価する。	10%
認知心理の特徴について理解すること	認知心理に関連する人間の特徴を理解できているかで評価する。	20%
適応心理の特徴について理解すること	適応するということがどのようなことかを理解できているかで評価する。	25%
<p>評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件。 中間試験40%、最終試験60%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学の成立ち	(1) 心理学とは
2	発達心理	(1) 発達とは (2) 発達の特質
3	発達心理	(3) 発達段階の特徴[1]
4	発達心理	(3) 発達段階の特徴[2]
5	発達心理	(3) 発達段階の特徴[3]
6	生理心理	(1) 神経系のはたらき
7	生理心理	(2) 情動とは (3) E Qとは
8	認知心理	(1) 感覚器官
9	認知心理	(2) 知覚の一般的特徴[1]
10	認知心理	(3) 知覚の一般的特徴[2]
11	中間試験	解説を含む
12	適応心理	(1) 欲求とは? (2) 欲求五階層説 (3) 葛藤
13	適応心理	(4) 欲求不満 (フラストレーション)
14	適応心理	(5) 適応機制
15	終了試験	解説を含む

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇必ず出席して積極的に学ぶこと。

心理学	サトウ エミ 佐藤 恵美
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、科学としての心理学の基本的な理論と方法論を学びます。人の心理と行動の特徴について正しい知識を得、心理学を学問として正しく理解することが目標です。

「心理学」では、発達心理学・生理心理学・知覚心理学・認知心理学・学習心理学の5領域をおもに学習します。いずれも心理学の基礎的な領域であり、心のメカニズムの理解には欠かせないテーマです。

授業は講義形式を中心とし、適切な時期に、必要に応じて学習内容を深めるための課題などを組み合わせていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理学	生涯発達心理学の概念と理論について正しく理解し、人が心理的社会的に変化する発達プロセスについて理解する。	20%
生理心理学 (心と脳)	神経系の機能性ならびに脳の構造の概略を把握し、説明することができる。さらに、それらの知識を結びつけて、心身二元論ならびに心身相関について理解している。	15%
知覚心理学	知覚のメカニズムについて理解したうえで、社会的知覚、錯視や立体視、運動視等の原理をある程度説明できる。	20%
認知心理学 (認知と社会適応)	欲求ならびに葛藤、欲求不満の定義・理論について適切に説明でき、適応機制について正しく理解している。また、身近な現象にあてはめて説明できる。	25%
学習心理学 (学習と記憶)	行動主義に基づく学習理論について、実験的手法を踏まえて理解できる。記憶と忘却のメカニズムについて簡単な説明ができる。	20%
評価の方法	本試験：50% *テキスト・資料・辞書等、一切持込不可。 レポート：30% *章ごとに課題指示。 平常点：20% *出席点・課題提出状況・授業態度を含む。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学とは何か？	科学としての心理学
2	発達	(1) 人の発達の特質 (2) 社会性の発達
3	発達	(3) 心理的社会的発達段階説
4	生理	(1) 神経系の機能性 (2) 脳の構造
5	生理	(3) 心身相関論
6	知覚	(1) 知覚のメカニズム・社会的知覚
7	知覚	(2) 錯視・知覚の全体性
8	知覚	(3) 運動知覚
9	認知	(1) 欲求 5 階層説 (2) 葛藤
10	認知	(3) 欲求不満 (フラストレーション)
11	認知	(4) 適応 (防衛) 機制と社会的不適応状態
12	学習	(1) 学習過程のメカニズムと理論
13	学習	(2) 学習理論 (行動主義) (3) さまざまな学習理論
14	学習	(4) 記憶と忘却のメカニズム
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社
- ◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

- ◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。
- ◇各章終了時に、講義の中でレポート課題（P Cで作成）を指示する。

心理学	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とします。

「心理学」では、人間の心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進めます。(1)人間の発達の仕組みと発達的变化、(2)心と脳との関係、(3)人間の視知覚の不思議、(4)欲求と適応行動、(5)学習行動と記憶のメカニズムをテーマに学習します。

授業は、主に講義を形式を中心とします。適時に、課題や心理テストを取り入れて、授業の理解を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的变化について理解する	レポートおよび試験により評価。人間の誕生から死までの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについて理解し設問に回答できること。	25%
心と脳との関連性を理解する	試験により評価。人間の心と行動に大きく関連する神経系や脳の構造や機能について知り得たことを回答できること。	15%
人間の視知覚の不思議について理解する	課題および試験により評価。知覚の中の視知覚を中心とする。視覚における錯覚（錯視）や人間の経験や環境が影響を及ぼす社会的知覚、運動視等について講義と課題を通じて学習した内容を説明できる。	20%
人間の欲求と適応行動について理解する	レポートおよび試験により評価。欲求と葛藤および欲求不満について正しく理解し、環境との適応について考察し答えることができる。	20%
学習行動と記憶のメカニズムについて理解する	課題および試験により評価。学習理論について学び、神経症や問題行動の理解に繋げる。記憶と忘却について課題を通じて理解し説明できる。	20%
評価の方法	①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況） ②レポートおよび宿題提出：30% ③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 科学としての心理学とは？
2	発達心理	(1)発達とは？ (2)発達のしくみ
3	発達心理	(3)発達段階の特徴[1]乳児期～思春期
4	発達心理	(3)発達段階の特徴[2]青年期～老年期
5	生理心理	(1)神経系のはたらき (2)脳の構造
6	生理心理	(3)情動 (4)心身症
7	知覚心理	(1)知覚の成立 モノの見え方の不思議
8	知覚心理	(2)知覚の全体性 知覚におよぼす欲求や価値
9	知覚心理	(3)運動の知覚 動いていないのに動いて見える？
10	認知心理	(1)欲求とは？ (2)欲求5階層説 (3)葛藤と欲求不満
11	認知心理	(4)適応機制 (5)適応と不適応行動
12	学習心理	(1)学習とは？ (2)学習過程のメカニズム[1]
13	学習心理	(3)学習過程のメカニズム[2] (4)無気力は学習される？
14	学習心理	(5)記憶と忘却
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること。

哲学	スミダ コウジ 隅田 浩司
Philosophy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、哲学を学ぶ上で最も大切な「ものの考え方」について、徹底的に学習することを目的としています。哲学とは、じっくり考える習慣がなければその本質を理解することはできません。たとえば、たくさんの哲学者の名前や業績の概要を試験前に暗記するだけで終わってしまう哲学の授業は時間の無駄です。この授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる思考力、とくに論理的な思考力を鍛えることを最優先しています。したがって、講義は、すべてディスカッション形式の対話型の授業となります。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見だし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかを、対話型授業の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用、基本パターンを身につけることができるかどうかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
文章構成品	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、対話型授業、授業内レポートの中で評価します。	20%
評価の方法	授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理とはなにか？	言葉のつなぎ方による論理の基礎を学びます
3	考えることを考える	論理的思考力の基礎を学びます
4	主張の作り方	自分の意見・主張を組み立てるやり方を学びます
5	論証について	論証とは何か、について学びます
6	論証の型 1	論証パターンについて学びます
7	論証の型 2	論証パターンについて学びます
8	演繹法について	演繹法について学びます
9	否定について	否定の種類を正確に理解する大切さを学びます
10	条件について	逆・裏・待遇を使いこなすことを学びます
11	推論の技術	推論の技術について学びます
12	仮説・検証	仮説と検証について学びます
13	論理とレトリック 1	レトリック（修辞学）の基礎を学びます
14	論理とレトリック 2	レトリック（修辞学）の基礎を学びます
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

◇授業の教材はすべて本学の学習支援システムである **CoursePower** からダウンロードできます。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義の中で、適宜、予習事項を指示します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、参加意欲が乏しい場合は履修停止になります。

◇私語は厳禁です。違反者は履修停止となります。

文化人類学	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Cultural Anthropology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業では先行する文化人類学の研究成果を通して、世界の諸地域に暮らす人々について学ぶとともに、自文化の多様性に目を向けていく。具体的には、グローバル化の流れの中で、「文化を押しつけずに認めていくこと」や文化が交わり新たな形態へと変化していくことなど、異文化との関わりにおいて文化人類学が提起してきた問題について考察する。そうした取り組みの中で、現代的な課題に向き合う力を育んでいくことを授業の目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	文化人類学の意義。異なる視点から見つめてみよう。
2	フィールドワーク	どういう研究手法があるの？
3	文化的他者	生き方を学ぶ
4	文化人類学の試練	自／他という境界と制度
5	抵抗	国という境界と歴史性
6	文化相対主義	進化主義と文化相対主義
7	個別文化	個別文化としての自文化
8	文化とは何か(1)	文化とパーソナリティ
9	文化とは何か(2)	異種混淆。ハイブリッドな文化のあり方
10	関わり合いを考える(1)	隣り合う異文化
11	関わり合いを考える(2)	理解しないまま共存していくこと
12	現代的な課題(1)	個人の足場となる文化とは？
13	現代的な課題(2)	自分の中の多元性を見つける
14	多文化主義	多文化主義は上から目線の政策？
15	総括・達成度の確認	総括およびテストを実施する

【使用教材】

- ◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。
- ◇小田亮著『構造人類学のフィールド』世界思想ゼミナール
教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。
文化人類学に興味のある方は持っているといいかと思います。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川の実生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰の実生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

<p>文学（源氏物語）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
<p>評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイドダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

<p>文学（歌舞伎）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイドダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文学（古典文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曾根崎心中	『曾根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曾根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曾根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

<p>文学（能・狂言）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べるができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』三省堂
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言?』檜書店
『能って何?』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数30%、受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	
7	日本語の知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの基本的な日本語の知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	
10	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	
14	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
15	総括・達成度の確認	
		今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験30%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（総合）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
- ◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
- ◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（漢検）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定2級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準2級、2級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字を分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組み、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験70%、小テストの点数、受講態度30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇留学生向けの日本語の授業ではなく、日本人向けの「日本漢字能力検定（漢検）」2級合格を目指す授業なので、留学生にはかなり難しい内容である。自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

生命科学	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（STI：性感染症）、人畜共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学的および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、STI、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学について、基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について、考えることができていること。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べるができる	レポートで評価する。生命科学に関する興味のあるテーマについて、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができていること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法について学ぶ
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との共通点と相違点について学ぶ
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防および検査法について学ぶ
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後について学ぶ
6	各臓器のがんⅠ	肺がんについて学ぶ
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がんなどの消化器がんについて学ぶ
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）について学ぶ
9	各臓器のがんⅣ	皮膚がんなど、その他のがんについて学ぶ
10	STIについてⅠ	エイズについて学ぶ
11	STIについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など、STIの原因、症状、予防および治療について学ぶ
12	STIについてⅢ	STIについて重要なポイントを確認する
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベストなどの有害物質と毒のある生物について学ぶ
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなどの人畜共通感染症や動物が媒介する感染症について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論	ヤガワ トシアキ 八川 敏昭
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

国際関係論は国際社会において生起するさまざまな事象についての分析をおこなう研究領域である。政治、経済、文化などさまざまな分野でグローバル化が進行し、これらの国際問題に対するわが国の基本姿勢が問われる局面が増大している。こうした現状をふまえ、この講義では、日本をとりまくさまざまな国際関係について、その経緯、現状、課題などを明らかにし、国際社会におけるわが国のありかたを考察するために必要な基礎知識を習得することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係全般に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係全般について、授業で教えたことに回答できること。	25%
経済の国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 経済の国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
政治・文化などの国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 政治・文化などの国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
国際関係の課題について考えるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係の課題について、客観的な視点で回答できること。	25%
評価の方法	全授業時間の3分の2以上の出席を前提とするが、出席状況・受講態度を勘案し、筆記試験にもとづいて「総合的に」評価するので、成績評価における出席状況・受講態度・筆記試験に対する配分を明示しがたいが、とくに、私語や途中退席の有無などの受講態度を重視するので、受講態度が悪い場合には、それを評価基準に100%反映させ、不合格とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	国際関係論の予備知識 I	第二次世界大戦後の国際関係の変化
2	国際関係論の予備知識 II	現在の国際関係の概要
3	グローバル化の進展	グローバル化の概要と進展状況
4	貿易	貿易をめぐる国際関係
5	投資	投資をめぐる国際関係
6	通貨	通貨をめぐる国際関係
7	人口	世界の人口問題とそのゆくえ
8	食料	食料をめぐる国際関係
9	エネルギー・資源	エネルギー・資源をめぐる国際関係
10	公害・環境	世界の公害・環境問題とそのゆくえ
11	南北問題	世界の経済格差とそのゆくえ
12	軍事	軍事をめぐる国際関係
13	日本の選択	複雑な国際関係における日本のゆくえ
14	まとめ	国際関係をめぐる世界の課題
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：西川潤『新・世界経済入門』岩波新書

【履修条件等】

◇私語をしないこと。教科書を持参すること（このふたつの条件は絶対に守ること）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目をとおしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<h2 style="margin: 0;">異文化コミュニケーション</h2>	<small>シミズ トシキ</small> 清水 俊樹 <small>フジモト マナブ</small> 藤本 学
Cross-Cultural Communication	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、ハラール／ムスリム市場に関する理解の促進と異文化を含めた市場における事業開発ノウハウの習得による事業機会の考察を深めることを目的とします。

事業開発とは、**Business Development** と訳される概念です。技術、サービスアイデアなどをもとに、それを事業化するために必要な全て（市場調査、資金調達、戦略、提携、広告宣伝など）を行うことによって事業は開発され、それ自体を事業開発行為と呼びます。

本講義では、現在18億人／200兆円の市場規模というイスラム圏での事業開発に関して包括的に取り上げます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／ムスリム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／ムスリム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができているか？ 評価方法は講義での貢献およびレポート提出を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイデアの創造・独自性とその倫理的な整理	ハラール／ムスリム市場における事業アイデアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できているか？ 評価方法は講義での貢献およびレポート提出を前提とする。	35%
3) グループワークによる事業アイデアの提案	本講義を通して得られるハラール／ムスリム市場に関する情報をもとに、独自の事業アイデアの提案ができるか？ 評価方法はグループワークでのパフォーマンスを中心にいきます。	30%
評価の方法	この授業では、各講義での貢献、学期末に提出義務のある期末レポート、およびグループワークでのパフォーマンスによる採点で評価します（定性的・定量的な理解に関するレポートが35%、独自のアイデアとその論理的な構成・説明力に関するレポートが35%、グループワークによる事業アイデア提案のパフォーマンスが30%を目安とします）。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発の概論	事業開発の概論に関する講義
3	事業開発の具体事例	事業開発の具体的な事例に関する講義
4	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
5	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
6	イスラム教の理解(1)	イスラム教の概念的な整理
7	イスラム教の理解(2)	実際のイスラム教徒の生活の紹介
8	事例の紹介(1)	ハラール／ムスリム市場における“アウトバウンド”に関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	事例の紹介(2)	ハラール／ムスリム市場における“インバウンド”に関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
10	中間の総括	ハラール／ムスリム市場への事業仮説検討に必要な構成要件の整理および前半講義の総括
11	グループワーク	ハラール／ムスリム市場参入の戦略仮説の検討
12	グループワーク	ASEAN 市場でのイノベーション・事業機会の検討
13	イスラム金融の紹介	イスラム金融の仕組みとイスラムビジネスのリスクの整理
14	講義の復習とグループワーク	期末レポートに向けた講義の振り返り、および事業機会の考察に関するグループワーク
15	期末レポート	学習達成度の確認を目的とした期末レポートの実施

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報をもとにしたアイデア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶することしか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイデアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／ムスリム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

経営数学	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Industrial Mathematics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカンのみで頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定された数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義ではビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを持徳的とする。概算や四捨五入などの基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中から、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法	50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる2つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	2つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	2つの変数の関係を1つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がついている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

<h1>コンピュータリテラシー</h1>	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Computer Literacy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。OSの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力はもちろんのこととして、Microsoft Word の操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excel を操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料を Microsoft PowerPoint を操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内PCの利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習(1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習(2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習(3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習(4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習(1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習(2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習(3)	関数 1（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習(4)	関数 2（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習(2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows 7 対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

ビジネスコンピューティング	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Business Computing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準2級・3級等のP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法	毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。 試験はP検タイピング試験・P検本試験（準2級または3級）の結果を勘案する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ(1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ(2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算(1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算(2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算(3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	I C Tを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P 検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となる P 検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	C B T方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じ C B T方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P 検本試験	P 検本試験（準2級または3級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
- ◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）。

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows / Word / Excel の基本的な操作ができること。
- ◇ 「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
- ◇ 授業時間内に P 検（準2級または3級）を受験すること。
- ◇ 基本的に P 検3級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業時間内に P 検タイピング試験、P 検（準2級または3級）の本試験を実施する。
- ◇P 検（I C Tプロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（I C Tプロフィシエンシー検定協会）
- ◇P 検に合格した場合は本授業単位の2単位に加え、さらに1単位を取得できる。（ただし、別途手続きが必要）

就職特講 I	ノザワ マキコ 野沢 牧子
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
<p>評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	職業適性を考える	キャリア形成について
3	自己分析	自分史を作成するなかで、社会人基礎力を基に自己の特性を知る
4	職種を理解	代表的職種と求められる特性について知る
5	学内業界研究セミナー	業界研究
6	履歴書の完成①	就職活動の全体スケジュールと準備事項、自己PRの書き方
7	履歴書の完成②	学生時代に力を入れたこと
8	履歴書の完成③	自己分析の完成
9	業界研究の仕方	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について
10	志望動機の作成	想定業界、企業での作成
11	選考の対策①	多様なESへの対応
12	内定者報告会	先輩内定者による報告会
13	選考への対策②	面接対策、マナー
14	選考への対策③	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講 I	ミヤジ ユカ 宮地 由夏
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	職業適性を考える	キャリア形成について
3	自己分析	自分史を作成するなかで、社会人基礎力を基に自己の特性を知る
4	職種を理解	代表的職種と求められる特性について知る
5	学内業界研究セミナー	業界研究
6	履歴書の完成①	就職活動の全体スケジュールと準備事項、自己PRの書き方
7	履歴書の完成②	学生時代に力を入れたこと
8	履歴書の完成③	自己分析の完成
9	業界研究の仕方	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について
10	志望動機の作成	想定業界、企業での作成
11	選考の対策①	多様なESへの対応
12	内定者報告会	先輩内定者による報告会
13	選考への対策②	面接対策、マナー
14	選考への対策③	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講 I (留学生対象)	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

卒業後に日本で就職したり、日本以外にある日本企業で働いたりすることを希望する留学生は年々多くなっています。しかし、皆が希望通りの仕事に就けるとは限りません。また就職してもすぐ転職する人も少なくありません。日本特有の就職事情を知らないこと、在留資格についての知識がないこと、また就職活動の準備開始が遅いことなどが問題になります。この授業では、日本の就職活動のしくみと流れを理解し、就職活動に役立つような準備をします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び、活動計画を立てる	日本の就職事情を学んで就職活動のしくみと流れを理解し、それに沿って今何をしなければならないかを考えて最終的に活動計画を立てることができるか、課題などをもとに評価する。	40%
日本の企業、業種、職種を研究する	日本の業種、職種を理解し、企業研究の方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職活動のために何をしなければならないかを理解しその方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
評価の方法 授業への参加姿勢、課題、期末課題を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業内容と授業の進め方について
2	日本の就職慣習を学ぶ	・日本の就職活動のしくみと流れ ・就職とアルバイトの違い、インターンシップとは
3		
4	企業研究、職業研究をする	・日本の企業が求める人材 ・職種と業種、職業適正 ・企業の選び方、業界研究と企業研究 ・いろいろな資格と日本語能力
5		
6		
7		
8	就職活動の具体的な準備をする	・情報の探し方（求人票、ハローワーク、就活ナビ） ・敬語と面接、ビジネスマナー ・履歴書、エントリーシート、メールの書き方 ・自己PR、志望動機、「ガクチカ」
9		
10		
11		
12	就職活動の実際	・先輩の経験談を聞く「内定者報告会」 ・在留資格（ビザ）について ・活動計画確認
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

◇とくになし。必要に応じて授業で指示します。

【履修条件等】

◇日本での就職を考えている外国人留学生は必ず履修してください。進路が未定でも、日本での就職の可能性がある場合も、履修を強く勧めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各学習項目を学ぶに際し、情報収集をしたり、活動計画を立ててまとめたりする課題が課されます。事前学習をしなければ、授業内容を十分に理解できないことがあるので、必ず準備をしてください。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して、変更することがあります。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題となっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
7	
8	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） } 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
9	
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
14	
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けら
4	スタンス、フリーハンドの効	れるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方
5	用、フォアハンドストローク、	の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打
6	スマッシュ、フットワーク（左	ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと
	右・前後）	正確さを追求する。
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピー
8	ショートカット（ツツキ）	ドをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。
9		ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。
11		多様な回転サーブを学習する（コース、速さ、種
		類）。
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲー
13		ムのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け
14		引き、間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェック
		する。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、ダブルダッチ等を題材 7 に学ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動） } 講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動） 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学 14 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。
8	ショートカット（ツツキ）	手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。
9		ナナ目、横、下回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅲ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 7	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
8 9	講義①：スポーツ傷害の予防法について } 講義②：年齢に合わせた体力トレーニングの必要性について
10 14	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、フラッグフットボール
7	等を題材に学ぶ
8	講義①：ロコモティブシンドロームについて } 講義②：運動と心拍数の関係性について
9	
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学
14	ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

日本事情（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
<p>評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

日本事情（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、グループディスカッションという手段を使って、自分の考えをまとめて発信する力、他者の考えを聞いて自分の考えと比較する力を身につけること、また、そこから考えを発展させ視野を広げることを目的とする。他の学生と協力しながらグループディスカッションを行い、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。このようなグループ活動と発表を通して、社会的なトピックについての知識も深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加する	グループ活動に積極的に参加し、円滑なグループ活動に貢献すること。	30%
グループの意見をまとめて発表する	グループで出た意見をまとめ、発表する。	40%
小論文	ディスカッションの結果をクラス全体で共有し、気づきや感想を小論文にまとめる。	30%
<p>評価の方法 授業参加度（グループ貢献度）30%、発表40%、小論文30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、グループディスカッション導入
2	ディスカッション1	ディスカッション 1－①
3	ディスカッション2	ディスカッション 1－②
4	ディスカッション3	ディスカッション 1－③
5	ディスカッション4	発表1－①
6	ディスカッション5	発表1－②
7	ディスカッション6	発表1－③
8	ディスカッション7	ディスカッション 2－①
9	ディスカッション8	ディスカッション 2－②
10	ディスカッション9	ディスカッション 2－③
11	ディスカッション10	発表2－①
12	ディスカッション11	発表2－②
13	ディスカッション12	発表2－③
14	ディスカッション13	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇遅刻欠席をせず、意欲を持って学習に取り組むこと。

◇メンバーと協力しあうこと。

◇相手の意見を尊重する姿勢を持つこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、単位は認めない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

<h1>インターンシップ I</h1>	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship I	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅡ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship II	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅢ	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship III	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

<h1>インターンシップⅣ</h1>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship IV	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 } インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」を履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

自己開発 I・II・III・IV	
Self-improvement I・II・III・IV・IV	選択科目／認定／各1単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

専 門 科 目

平成30年度

経営学部イベントプロデュース学科

< 3年生・4年生用 >

東京富士大学

経営学概論	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学にはさまざまな領域があります。たとえば、管理論、組織論、戦略論、企業論、会計学や心理学などの領域があります。そのなかでも、管理論、組織論、戦略論、そして企業論は経営学の中核的な領域になります。したがって、これらの領域の基礎を学ぶことによって、経営学の基礎固めをすることができると同時に、経営学とはどのような学問なのか、あるいは経営学を学ぶ意義とは何か、を理解できるようになるでしょう。

経営学は他の学問と比べてまだ歴史は浅いですが、人類のさまざまな課題を克服するうえで重要な役割を果たしていく可能性を大いに秘めている学問です。換言すれば、経営学を学ぶことによって、皆さんが将来活躍する場は無限に広がることでしょう。

本講義は入門科目ですので、経営学をより本格的に学ぶには、上記に挙げた領域の専門科目をさらに履修する必要があります。本講義の使命は、専門科目を学ぶための橋渡しの役割を果たすことにあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎知識と理論の理解	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学とは何かを理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学を学ぶ意義を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学の応用可能性を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
評価の方針 本試験70%と小テスト等（出席点含む）30%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	経営学とは何か	17	経営戦略論①
3	管理論①	18	経営戦略論②
4	管理論②	19	経営戦略論③
5	管理論③	20	経営戦略論④
6	管理論④	21	経営戦略論⑤
7	管理論⑤	22	経営戦略論⑥
8	管理論⑥	23	組織論①
9	企業論①	24	組織論②
10	企業論②	25	組織論③
11	企業論③	26	組織論④
12	企業論④	27	組織論⑤
13	企業論⑤	28	組織論⑥
14	企業論⑥	29	まとめ
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：藤田誠著『経営学入門』中央経済社、2015年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇授業中の私語やスマホ等の使用は厳禁です。その他、担当教員の指示に従わない者は本試験の受験ができなくなる可能性があるので注意してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書等、講義内容に関する領域を事前に読んでおくことをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学概論	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学は、企業を対象としてその構造と行動原理を学ぶ学問です。企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出しています。そうした存在意義をなす現在の企業は、激しい市場競争を乗り越えなければ存続し続けることはできません。企業が存続していくためには、利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければなりません。

本講義では、こうした観点に立って企業経営の「構造」的理解と活動体・存続体としての「行動」的側面に視点を当て、企業経営を考えます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の基本的な特質を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学の対象としての企業経営活動を理解する ・企業経営は生産活動体であり、財やサービスを生産し、社会的な役割を理解する ・企業はなぜ利潤追求をするのかを理解する ・商品、商品生産過程の意味や内容を理解する ・企業経営に関わる市場を学び、グローバル化でどのように変化したかを理解する 	30%
資本調達の仕事組を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・資本の意味を理解する ・グローバル経済下での資本調達の基軸を理解する ・自己資本、他人資本、出資、負債の内容と違いを理解する ・株式会社の特性を理解する 	15%
コーポレート・ガバナンスを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンスの狭義と広義の視点から違いを理解する ・グローバル・スタンダードを理解する ・ステークホルダーを理解する ・取締役会の意義、役割を把握し、取締役会の改革や課題を理解する 	15%
経営管理の変遷過程を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理活動の原点とその変遷過程を理解する ・近現代の特徴である組織柔軟性を理解する ・リーダーシップとは何かを理解する 	10%
経営戦略論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略論の概念を学び、策定方法を理解する ・グローバル市場の変化を理解する ・戦略的的人資源管理の問題点を考える 	15%
グローバル市場下の企業経営を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・日本的経営論の変化を理解する ・企業の多国籍化を理解する ・環境経営と社会的責任の遂行を理解する 	15%
評価の方針	70%以上の出席率が必要です。 評価は出席点20%、期末試験80%とします。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営学説史を学ぶ①
2	経営学とは何か	17	経営学説史を学ぶ②
3	企業の基本的特質	18	経営戦略論
4	企業形態①	19	経営戦略策定とケーススタディー
5	企業形態②	20	財務管理論①
6	株式会社制度の特質	21	財務管理論②
7	企業集団と現代的な特徴	22	マーケティング論
8	コーポレート・ガバナンス	23	生産管理論
9	多国籍企業論	24	人的資源管理論①
10	企業経営とステークホルダー	25	人的資源管理論②
11	中小企業論	26	日本的経営論とその変化
12	中小企業の現状と課題	27	情報技術革新と企業経営の変化
13	ベンチャー企業論	28	環境経営論
14	非営利組織論	29	C S R と企業倫理
15	春学期まとめと試験について	30	秋学期まとめと試験について

【使用教材】

- ◇百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社
- ◇参考書：市川彰・名取修一編著『現代経営学要論』同友館
講義の中で適宜紹介します。
- ◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

- ◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。
- ◇新聞、雑誌等のメディアを通じて時事情報を捉えておいてください。
- ◇自分自身のノートを作成してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇受講者は各自テキストを準備してください。
- ◇各回の講義ごとにテキストを読み返して、復習を行ってください。

【その他の注意事項】

- ◇配布した資料の管理を各自行ってください。
- ◇各自、自身の出席管理を行ってください。

経営学概論	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
評価の方法 試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。 平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営戦略①
2	経営組織①	17	経営戦略②
3	経営組織②	18	経営戦略③
4	経営組織③	19	経営戦略④
5	経営組織④	20	マーケティング①
6	経営組織⑤	21	マーケティング②
7	経営組織⑥	22	国際経営
8	モチベーション①	23	生産管理
9	モチベーション②	24	品質管理
10	モチベーション③	25	製品開発
11	リーダーシップ①	26	イノベーション①
12	リーダーシップ②	27	イノベーション②
13	リーダーシップ③	28	イノベーション③
14	春学期の復習	29	秋学期の復習
15	試験および総括	30	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。また、授業内で参考文献を紹介する。

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

経営学概論	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ2年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
<p>評価の方法 70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度5% 試験は、2回の定期試験と中間試験の結果とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	16	企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	17	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	18	組織形態(2)
4	人間関係論	19	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	20	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	21	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	22	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	23	日本的経営
9	企業論(1)	24	組織的意思決定
10	企業論(2)	25	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	26	経営戦略論(2)
12	企業結合	27	経営戦略論(3)
13	国際経営論	28	経営戦略論(4)
14	企業目的	29	組織文化
15	総括・達成度の確認	30	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できる人。

◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

経営学概論（留学生対象）	オガワ タツヤ 小川 達也
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

留学生の初学者を対象に企業経営の基礎的理論と実践的知識の理解を深め、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要・評価方法）	16	株式会社の統治 ①規模別の諸形態
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	〃 ②監査役設置会社
3	〃 ②企業の経営を考えよう	18	〃 ③指名委員会等設置会社
4	〃 ③マネジャーの仕事とは	19	〃 ④監査等委員会設置会社
5	〃 ④テイラーの科学的管理	20	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
6	〃 ⑤ファヨールの管理思想	21	〃 ②その内容と優先順位
7	〃 ⑥バーナードの組織理論	22	〃 ③企業の社会貢献活動
8	企業・会社の概念 ①企業・会社とは何か	23	〃 ④企業の反倫理的行動
9	〃 ②企業の諸形態	24	〃 ⑤コンプライアンス経営
10	〃 ③会社法の概要	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	〃 ④所有と経営の分離	26	〃 ②2つの企業価値創造経営
12	〃 ⑤合名・合資・合同会社	27	〃 ③米国型経営の教訓
13	〃 ⑥株式会社の特徴と役割	28	〃 ④企業の4つの価値創造
14	〃 ⑦企業統治の概念と目的	29	〃 ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：二神恭一編著『新版ビジネス・経営学辞典』中央経済社、2006年
そのほかの参考書は、授業中に紹介します。

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う
目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切
です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、
わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。
◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌を
よく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項
など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく
使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

イベント学概論	オク 奥 マサタカ 正孝
Introduction to Eventolog	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

イベントの時代と言われて久しい現代において、イベントの入門である、定義、形態、意義、機能、役割等について理解する。その上で、イベントが持つ社会や地域や産業における存在について検証する。続いて、イベントの持つ非日常性、感性価値、体験価値等にスポットライトを当て、新たなイベントを創造するためにどうすればよいか、イベント・イノベーションへと講義を進める。

秋学期は、イベントの実行・実現について解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

春学期

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントとは何か、イベントに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いイベントカテゴリーを説明できる	カテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントの役割が理解できる	実際のイベント事例を通して、イベントが起こせる波及効果と果たさねばならない義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートにより評価。 イベント発想で課題に対し、ユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%

秋学期

イベントマネジメントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントマネジメントとは何か、イベントマネジメントに必要な要素について答えられる。	20%
イベントマネジメントのカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントマネジメントの各カテゴリーごとの機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントマネジメントの役割が理解できる	実際のイベント事例を通して、イベントマネジメントの具体的な施策について理解している。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベント発想で課題に対し、ユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%

評価の方法 各授業での小テストやレポート70%。試験で30%

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	イベント学概論Ⅰ	16	イベント“本番学”Ⅰ
2	Ⅱ	17	Ⅱ
3	イベントと地域ブランドⅠ	18	イベントと企画Ⅰ
4	Ⅱ	19	Ⅱ
5	イベントと企業プロモーションⅠ	20	イベントと計画Ⅰ
6	Ⅱ	21	Ⅱ
7	イベントと社会トレンドⅠ	22	イベントと演出Ⅰ
8	Ⅱ	23	Ⅱ
9	イベントと祭りⅠ	24	イベントと制作Ⅰ
10	Ⅱ	25	Ⅱ
11	イベントと美学Ⅰ	26	イベントと実施運営Ⅰ
12	Ⅱ	27	Ⅱ
13	新時代のイベントⅠ	28	イベントと成功評価Ⅰ
14	Ⅱ	29	Ⅱ
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

サービス産業概論	ヒノ タカオ 日野 隆生
Service Industry Theory	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

これまでの長い間、わが国の経済社会システムは、製造業を念頭において動いてきていた。このことが起因して「サービス産業」がわが国の経済発展を担う重要な産業であるとの位置づけが曖昧になりがちであった。「サービス産業」はわが国にとって製造業と両輪となって経済を牽引している。製造業と比較すると、サービス業は多種多様な縦割りの個別産業毎に活動している。なかなか把握しにくい点がここに存在するのであるが、よく究明してみると、実はこのような拠に価値を生産する機会がいっぱいある。新たなサービス機能へのニーズの高まりを捉えて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「経済のサービス化」に関して理解する	レポート提出により評価する。 「サービス産業化」は、経済全般に及んでおり、農業も工業も例外なく進んでいることを説明できる。	20%
経済記事を読む能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読み、その内容を要約できる。	30%
経済記事を論評する能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読んだのちに、自らの論評を文章化し論評できる。	30%
「付加価値提案」の重要性を理解する	レポート提出により評価する。 メーカーもサービス業も「従来にないサービスや機能」を実現するために、常に付加価値提案が求められていることを説明できる。	20%
評価の方法 レポート50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション・授業の進め方
2	サービスの概念	17	日本標準産業分類の構造
3	サービス産業	18	情報通信業
4	サービス産業の現状 (1)	19	運輸業、郵便業
5	サービス産業の現状 (2)	20	金融業、保険業
6	サービス産業の分類 (1)	21	不動産業、物品賃貸業
7	サービス産業の分類 (2)	22	学術研究、専門・技術サービス業
8	サービス産業の分類 (3)	23	宿泊業、飲食サービス業
9	サービスの構造	24	生活関連サービス業、娯楽業
10	サービスに対する評価	25	教育・学習支援業
11	サービスの生産	26	医療・福祉サービス
12	サービス・エンカウンター	27	複合サービス事業
13	サービス・プロフィット・チェーン	28	サービス産業とイベント産業の展開
14	ケーススタディ	29	新しいサービス産業
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇プリントの配布。

◇参考書：『サービス・マネジメントの理論と実践』五紘舎

【履修条件等】

◇日常的にサービス業について関心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇サービス業界についてニュースなどで知ること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論 I	<small>エンジョウジ タカヒロ</small> 円城寺 敬浩
Modern Corporation I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では「企業論Ⅱ」で扱う諸問題を考えるための基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、VTR等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など）。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
<p>評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅰ」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	3回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	8回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	大企業とは何か⑤	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年
- ◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較—米、英、独、仏、日の企業と経営—』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

- ◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

企業論 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「企業とは何か」をテーマに、企業社会の中心的存在である「株式会社」に注目し、とくに大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	経済発展と生活の変化、 大企業の実態	戦後日本経済の発展と企業社会の成立
3	企業の戦略	企業の戦略とは何か
4	企業と消費者	企業と消費者との関係を考える
5	企業の国際化	多国籍化・グローバル化する企業
6	株式会社の歴史	株式会社制度成立の歴史を学ぶ
7	株式会社の機能と構造	会社の種類と仕組みを学ぶ
8	株式会社の現実	株式会社制度の実態を学ぶ
9	大企業とは何か	社会における大企業の役割を学ぶ
10	大企業の支配構造(1)	大企業を支配するものは誰か
11	大企業の支配構造(2)	大企業を支配するものは誰か
12	大企業の性格と機能	大企業の管理はいかになされているか
13	大企業の経営者	経営者支配の実態と責任
14	大企業のコーポレート ・ガバナンス	企業の統治機構の仕組みについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern Corporation II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてVTR等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本型とは何か。またその議論の意義について理解できていること	設問に関する回答によって評価する。日本型を議論する意義について理解できているか。	10%
日本型の企業間関係について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の企業間関係と近年のその動向に関して理解できているか。	30%
日本型の雇用システムについて基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の雇用システムと近年のその動向に関して理解できているか。	30%
企業と社会との関係および企業の社会的責任について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅱ」の講義内容等の紹介
2	日本型企业システムの動向	「日本型」に関する考察
3	企業間関係①	企業集団に関する考察
4	企業間関係②	3回のつづき
5	企業間関係③	企業系列に関する考察
6	企業間関係④	5回のつづき
7	日本的雇用慣行①	終身雇用制や年功制等に関する考察
8	日本的雇用慣行②	7回のつづき
9	日本の文化と行動様式①	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
10	日本の文化と行動様式②	9回のつづき
11	企業と社会	「企業と社会」に関する考察
12	企業の社会的責任①	企業の社会的責任の基礎概念の理解
13	企業の社会的責任②	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	「企業論Ⅱ」の総括	「企業論Ⅱ」の総括と本試験に関して
15	本試験	「企業論Ⅱ」の内容の理解度を確認するために、ペーパー試験を実施

【使用教材】

- ◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年
- ◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較—米、英、独、仏、日の企業と経営—』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

- ◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

企業論Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「日本企業の特殊性は何か」をテーマに、日米の国際比較や日本的経営論を学ぶことによって、日本の大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性とそれを取り巻く諸制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。日本企業に関する知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	企業と官僚制	官僚制組織の仕組みを学ぶ
3	企業組織の諸形態	組織の諸類型を学ぶ
4	企業組織と管理論の展開(1)	科学的管理と大企業の成立
5	企業組織と管理論の展開(2)	組織の管理とは何か
6	日本企業と従業員	日本企業における企業と従業員の関係を学ぶ
7	日本型株式会社制度の構造と実態	日本型株式会社制度の特徴とは何か
8	日本型企业結合様式の独自性	企業系列と企業集団
9	「家」としての日本企業	家の論理とは何か
10	日本的経営	日本的経営の理論と実態
11	企業の社会的貢献	企業の社会的貢献と社会的責任について学ぶ
12	企業と地域社会	企業と地域社会との関係について学ぶ
13	企業統治と企業倫理	企業倫理とは何か
14	社会的企業	社会的企業とは何か
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅰ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、私たちの生活の中で切り離せない存在になっています。私たちが毎日生活を送っていく中で、企業活動によって生み出された商品（モノ）を使い、豊かさを享受してきています。また、商品を生産したり販売したりする過程では、「人」が「働く」ことで人や社会のつながりを形成し、自己の存在意義が発揮されたり確信したりもします。そうした、人々が生きていく上での「生活の糧」として存在している現代の企業は、激しい市場競争を乗り越えていかなければ存続することができません。

企業が存続していくためには、利潤生産を達成し、商品を生産し続けなければなりません。その目的達成のために、人・モノ・カネという資源を組織化し統合していく必要があります。本講義では、こうした諸資源を統合化するための経営管理技術を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業概念を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業とは何か、企業経営活動とは何かを理解する ・ 企業の存在意義としての生産活動の内容を理解する ・ 商品および商品生産過程の意味や内容を理解する 	20%
企業の社会的役割を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業に関わる4つの市場と、そのグローバル化による変化を理解する ・ ステークホルダーと、そのグローバル化による変化を理解する ・ 企業経営の社会的責任の遂行を理解する 	20%
経営管理活動の二面性と組織効率性基準の設定を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利潤生産と商品生産の二つの生産活動の性質の違いを理解する ・ 経営管理の行動基準は変化することを理解する 	20%
経営管理技術の変遷を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理技術の歴史的変化を理解する ・ 近現代の経営管理の特徴を理解する ・ コンティンジェンシー理論を理解する ・ 組織行動と環境とのシステムを理解する 	20%
社会技術システム論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業行動の柔軟性創造を理解する ・ 組織成員に求められる柔軟性を理解する ・ 機械的管理システムと有機的管理システムの違いと現状を理解する 	20%
評価の方針	本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法の説明
2	企業経営を概観する①	企業経営が関わる市場と競争原理を学ぶ
3	企業経営を概観する②	基本的な事業内容と利潤生産・商品生産の重層構造を考える
4	生産活動の社会的意義	ステークホルダーと社会的意義を理解する
5	マネジメントとは何か	経営管理活動の効率性基準とその二重性を考える
6	分業論を学ぶ	管理職能と作業職能の内容と構造を理解する
7	個人行動の組織化過程	個人行動の内容を理解し、組織化過程のメカニズムを学ぶ
8	動機づけ理論を学ぶ	個人の動機の内容や動機づけ理論を学ぶ
9	管理過程論を学ぶ	マネジメント・サイクルを理解し、自己管理について考える
10	マネジメントの変遷①	マネジメントの成立過程と今日までの展開の特質を学ぶ
11	マネジメントの変遷②	人間関係論の展開と意思決定論、自律的人間像を考える
12	企業の管理組織構造	トップ・ミドル・ロー・マネジメントの構造と役割を学ぶ
13	企業組織の構造を学ぶ	小規模企業と大規模企業の組織機構の違いを考える
14	企業環境と組織柔軟性	機械的管理システムと有機的管理システムの重層性を考える
15	まとめ	まとめと試験について

【使用教材】

- ◇教科書：講義の中で指示します。
- ◇参考書：塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男著『経営管理』有斐閣アルマ
- ◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

- ◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。
- ◇新聞、雑誌等メディアを通じて時事情報を捉えておいてください。
- ◇授業ノートの作成では、板書のみならず積極的にメモを取るようにしてください。
自身独自のノート作成に心掛けてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇自身で作成したノートは、講義前に前回の内容を確認し復習し積極的に活用してください。

【その他の注意事項】

- ◇配布した資料は各自で管理してください。
- ◇各自出席管理を行ってください。

経営組織論 I	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論 I」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方向的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	J. D. トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	まとめ	非合理的組織論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Organization Theory I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「人と組織」の関係に注目し、組織における人間行動についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくにマネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「人と組織」の関係の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	経営学のはじまり	産業革命とアメリカ経営学の発展について
3	経営管理論の展開	科学的管理について
4	全社的管理論の展開	大規模組織の管理について
5	ホーソン研究	初期の集団研究について
6	バーナード組織論①	人間とは何か、協働とは何か
7	バーナード組織論②	組織とは何か、管理とは何か
8	バーナード組織論③	ケーススタディ
9	モチベーション研究①	初期のモチベーション理論について
10	モチベーション研究②	近年のモチベーション理論について
11	リーダーシップ研究①	初期のリーダーシップ理論について
12	リーダーシップ研究②	近年のリーダーシップ理論について
13	モチベーションとリーダーシップ	ケーススタディ
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅱ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モチベーション（動機づけ）、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モチベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モチベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モチベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モチベーション(4)	アージェリスの不適合理論
9	モチベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モチベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モチベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメーカー他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Organization Theory II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「システムとしての組織」に注目し、組織の構造についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくに、マネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「システムとしての組織」の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	アメリカ経営学の潮流	経営組織論の基礎について
3	意思決定①	個人の意思決定について
4	意思決定②	組織の意思決定について
5	組織と環境①	環境適応の理論について
6	組織と環境②	取引コスト理論について
7	組織と環境③	組織間関係の資源依存モデルについて
8	組織と戦略	事業戦略と組織のライフサイクルについて
9	知の経営学	知識創造型経営について
10	組織と学習①	組織における学習過程について
11	組織と学習②	実践的学習について
12	組織と文化	組織文化論、日本的経営論
13	ポストモダンの組織論	近年の経営組織論の研究動向について
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

経営戦略論 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃 ②	経営理念とビジョンの役割
5	〃 ③	経営戦略の3つのタイプ
6	〃 ④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃 ②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃 ③	市場細分化戦略
10	〃 ④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と5つの競争要因
12	〃 ②	競争戦略の基本モデル(1) コストリーダーシップ
13	〃 ③	競争戦略の基本モデル(2) 差別化と集中化
14	〃 ④	価値連鎖（バリューチェーン）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃 ②	特許を活用した戦略展開
4	〃 ③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃 ②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃 ③	P P M (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント) の意義
8	〃 ④	P P Mの基本戦略とG Eのビジネススクリーン
9	〃 ⑤	P P Mの応用展開：M&A (企業の合併と買収) の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃 ②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃 ③	ドメイン・コンセンサス
13	〃 ④	ドメインの再定義
14	〃 ⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経済学概論 I	<small>シミズ ヨシキ</small> 清水 良樹
Introduction to Economics I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？ たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？ あなたならどう答えますか？ こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験90%、課題およびリアクションペーパー等の平常点10%
<p>評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済主体と経済活動	経済とはなにか
3	消費	所得と消費の関係
4	投資	投資の理論
5	政府支出	財政の役割
6	政府の役割①	財源
7	政府の役割②	財政赤字の問題
8	決済	為替取引
9	貿易と決済	内国為替と外国為替
10	GDP	経済成長と経済の豊かさとは
11	戦後日本経済史（前編）	戦後からバブル崩壊まで
12	戦後日本経済史（後編）	バブル崩壊後の日本経済
13	景気指標	DI、CI、日銀短観
14	物価	インフレとデフレ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学概論 I	マツダ タカシ 松田 岳
Introduction to Economics I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マクロ経済政策の目標について理解できる	マクロ経済政策の目標を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	46%
マクロ経済と財政政策の関係を理解できる	マクロ経済と財政政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
マクロ経済と金融政策の関係を理解できる	マクロ経済と金融政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
評価の方法 試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する
2	マクロ経済学	経済学の目標を理解する
3	経済成長	生活レベルを上げる方法
4	失業率	失業が増えるとなぜ困る
5	インフレ	物価が上昇してなぜ困る
6	国際収支	赤字国になるとなぜ困る
7	総需要と総供給	経済学の二つの派閥たち
8	インフレ率と失業率	物価と失業は両立しない
9	財政政策と財政赤字	政府の収支が赤字な理由
10	景気対策	穴掘れば好景気になる？
11	財政赤字と貯蓄率	赤字のツケを払うのは誰
12	お金と銀行	民間企業がお金を増やす
13	日本銀行	中央銀行が生まれるまで
14	中央銀行と金融政策	物価の「番人」日本銀行
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学概論Ⅰ」の総括を行う

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇5回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇同時に「経済学概論Ⅱ」（松田岳）を履修することを強く推奨する。
- ◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

経済学概論Ⅱ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Introduction to Economics II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と課題によって成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
<p>評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	需要と供給	需給関係の変化と価格への影響
3	価格の決定	価値と価格
4	弾力性	価格変化
5	費用と便益	大学進学のコストと便益を考える
6	生産性	生産性を上昇させる方法
7	雇用	大学生の就職状況
8	株式と債券	株式と債券のちがい
9	金融政策①	お金とは
10	金融政策②	中央銀行の役割
11	決済システム	日銀ネット、RTGS
12	経済危機①	景気循環における恐慌
13	経済危機②	危機対応策
14	バブルの歴史	世界で起こったバブル現象
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学概論Ⅱ	マツダ タカシ 松田 岳
Introduction to Economics II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
グローバル化する経済の諸問題について理解できる	グローバル化の諸問題を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	46%
現代日本が抱える経済問題について理解できる	現代日本の経済問題について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
21世紀の政治経済について理解できる	21世紀の政治経済を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
評価の方法 試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する
2	自由貿易	外国からものを買う理由
3	保護貿易	貿易をやめると幸せか？
4	為替相場	円高は幸福か、不幸か？
5	バブル・リレー	バブリーなのは幸せか？
6	国際金融危機	国を超え危機は伝播する
7	世界経済の視座	コスモポリタンの経済学
8	所得格差	所得格差が拡大する理由
9	貧困問題	貧困は放置すべきか否か
10	人口減少	人口減少がもたらす問題
11	環境と経済	環境保護反対派の考え方
12	いざなぎ景気	小泉政権といざなぎ景気
13	失われた3年	民主党政権とデフレ経済
14	アベノミクス	アベノミクスと日本経済
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学概論Ⅱ」の総括を行う

【使用教材】

- ◇教科書：ガイダンス時に指示する。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇5回以上欠席すると評価対象外になる。
- ◇同時に「経済学概論Ⅰ」（松田岳）を履修することを強く推奨する。
- ◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。
- ◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。
- ◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。
- ◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。
- ◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

マーケティング概論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4 P 概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略 1	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略 2	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論 I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティング・コンセプト	マーケティング・コンセプトの変遷
3	基本的戦略	マーケティングの基本的戦略
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	価格戦略①	価格決定方法
7	価格戦略②	価格戦略
8	プロモーション戦略①	プロモーションの概念
9	プロモーション戦略②	プロモーションの手段
10	流通チャネル戦略①	流通チャネルの概念と類型
11	流通チャネル戦略②	流通チャネル戦略
12	関係性マーケティング	リレーションシップ・マーケティングとは何か
13	グリーン・マーケティング	グリーン・マーケティングとは何か
14	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの意義と方法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テスト

【使用教材】

◇教科書：『マーケティング戦略論』学文社

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、様々な視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4 P の概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析 (1)	企業のマイクロ環境、SWOT分析について
6	市場環境の分析 (2)	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動 (1)	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動 (2)	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略 (1)	製品のとらえ方について
11	製品戦略 (2)	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある

マーケティング概論 II	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント 1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント 2	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略 1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略 2	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進とPR活動	販売促進の目的設定と手段、PR戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

◇「マーケティング概論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論Ⅱ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースをとりあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	サービスの特性	サービスの概念・サービス業とは
3	サービス・マーケティング	サービス・マーケティング論の特徴
4	サービス・エンカウンター	サービス・エンカウンターとは何か
5	サービスの品質と満足	サービスの品質評価、満足と歓喜
6	従業員満足と顧客満足	サービス・プロフィット・チェーンの考え方
7	サービス・デリバリー	サービス・デリバリー・システム
8	マーケティング・コミュニケーション	サービス・マーケティング・コミュニケーション
9	キャパシティ・マネジメント	サービスの生産への効率的配分
10	サービス人的資源管理	サービス品質と従業員の関わり
11	サービス・ブランディング	サービスのブランド構築
12	宿泊施設	ホテル、ペンション、民宿のマーケティング
13	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
14	アミューズメント施設	アミューズメント施設のマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇『サービス・マネジメントの理論と実践』五絃舎

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論 II	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャンネルの構造、流通に関連する組織、チャンネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル(1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル(2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究(1)	流通の事例について
6	広告戦略(1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略(2)	広告の表現について
8	販売促進とPR	プロモーションの種類とPR活動について
9	事例研究(1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーションマーケティング	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究(3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング(1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング(2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

広告論 I	ナカオ タカトシ 中尾 孝年
Principle of Advertising I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

第一線で活躍している現役の電通クリエイティブディレクターによる授業です。

クリエイティブなアイデアの発想方法から実際の広告の企画、表現、統合的なキャンペーン提案にいたるまでを実践形式で学んでいただきます。

もしかしたら、あのCMの裏話が聞けるかも?!

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企画：斬新で独創性のあるアイデアか？	課題、商品、サービスに対してのアプローチの仕方 方で評価	40%
表現：そのアイデアをどんな方法で実現したか？	課題、商品、サービスに対してのアウトプット方法 方で評価	30%
挑戦：どれだけ積極的に考えたか？	課題、商品、サービスに対しての解答、回答、提案、 発言の数で評価	30%
<p>評価の方法 毎回の授業で出題する課題への回答と解答、期末テストの結果を踏まえて総合的に評価します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	アイデア発想法 1	演習を通じてさまざまなアイデアの発想法を学習
2	アイデア発想法 2	演習を通じてさまざまなアイデアの発想法を学習
3	アイデア発想法 3	演習を通じてさまざまなアイデアの発想法を学習
4	アイデア発想法 4	演習を通じてさまざまなアイデアの発想法を学習
5	コピーの時間 1	実際のコピーライティングに挑戦
6	コピーの時間 2	実際のコピーライティングに挑戦
7	プランニング 1-1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
8	プランニング 1-2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
9	プランニング 2-1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
10	プランニング 2-2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
11	プランニング 3-1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
12	プランニング 3-2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
13	高度なプランニング 2	より高度なコミュニケーションデザインを企画
14	高度なプランニング 3	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：3月発刊予定の自身の著書を使用予定です。

【履修条件等】

◇楽しみながら考えることができる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日々の暮らしを自分らしく過ごしてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の手続きを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	事例研究(2)	広告に関連するビジネスの具体例を説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所を目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	OOHやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベント戦略論 I	イハラ ヒサミツ 井原 久光
Event Intelligence I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、マネジメントに関する基本的な考え方と理論を理解するとともに、それをイベントに応用する力を高めていくことを目的にしている。具体的には、経営理論に基づき、企業の幅広い経営活動について学びつつ、経営におけるイベントの位置づけを解説し、企業と市場や社会との関係を考えていく。また、豊富なケースをとりあげ、具体的なイベント・プロデュースの事例を通じて、実践的にイベントをプロデュースするポイントを学ぶ。さらに、チームスタディ的な課題を加えることで、講義では理解できないイベント・プロデュースの実際を学んでいければと考えている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営をめぐる市場環境について理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。企業をめぐる市場環境について理解できているかを基準にする。	15%
マネジメントの基本について学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。マネジメントの基本について理解できているかを基準にする。	15%
具体的な事例を通じて、実践的にイベントを学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。教材にあるイベントに関する基礎的な知識を理解できているかを基準にする。	30%
チームスタディを通じてイベントの実際について実践的に理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容に加えてチームへの参加度や貢献度も加味して評価する。経営の実際について実践的に理解できているかを基準にする。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として試験の比率を60%、クラスパーティシペーションを20%、チームスタディにおける貢献度を20%のウェイトにする。 試験は知識を問う記号式と意見を問う記述式で構成し、演習では小テストにより基礎的な学習成果を評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本科目の意義や目的、スケジュール、評価方法等を共有する
2	マーケティングの基礎	マーケティングの基本的な考え方について学ぶ
3	4 P理論とイベント	4 Pについて学び、イベントの位置づけについて理解する
4	サービス財とイベント	サービス財におけるイベントの重要性を理解する
5	産業財とイベント	産業財におけるイベントの重要性を理解する
6	ブランドとイベント	ブランドの構築にイベントがどうかかわっているかを考える
7	コーズマーケティング	コーズマーケティングの観点からイベント戦略を考える
8	ケーススタディ 1	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
9	ケーススタディ 2	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
10	ケーススタディ 3	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
11	ケーススタディ 4	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
12	チームスタディ 1	チームスタディを通じてイベント戦略を学ぶ
13	チームスタディ 2	チームスタディを通じてイベント戦略を学ぶ
14	チームスタディ 3	チームスタディを通じてイベント戦略を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて、その都度、プリントを配付する。

◇参考書：井原久光『ケースで学ぶマーケティング（第2版）』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇日頃からイベントに絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジメをあらかじめ読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇日本経済新聞、その他主要経営・経済関係誌などを読む習慣をつけること。

イベント戦略論 II	イハラ ヒサミツ 井原 久光
Event Intelligence II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、マーケティング戦略に関する基本的な考え方と理論を理解するとともに、それをイベントに戦略的に応用する力を高めていくことを目的にしている。具体的には、4P理論に基づき、幅広いマーケティング活動について学びつつ、マーケティングにおけるイベントの位置づけを解説し、企業と市場や社会との関係を考えていく。また、豊富なケースをとりあげ、具体的なイベント・プロデュースの事例を通じて、実践的にイベントをプロデュースするポイントを学ぶ。さらに、チームスタディ的な課題を加えることで、講義では理解できないイベント・プロデュースの実際を学んでいければと考えている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントをめぐる市場環境について理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。イベントをめぐる市場環境について理解できているかを基準にする。	15%
マーケティング戦略の基本について学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。マーケティング戦略の基本について理解できているかを基準にする。	15%
具体的な事例を通じて、実践的にイベントを学ぶ	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容によって評価する。必要に応じて小テストも行う。教材にあるイベントに関する基礎的な知識を理解できているかを基準にする。	30%
チームスタディを通じてイベントの実際について実践的に理解する	設問に対する回答やリアクションペーパーの内容に加えてチームへの参加度や貢献度も加味して評価する。経営の実際について実践的に理解できているかを基準にする。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として試験の比率を60%、クラスパーティシペーションを20%、チームスタディにおける貢献度を20%のウェイトにする。試験は知識を問う記号式と意見を問う記述式で構成し、演習では小テストにより基礎的な学習成果を評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本科目の意義や目的、スケジュール、評価方法等を共有する
2	マーケティングの基礎	マーケティングの基本的な考え方について学ぶ
3	4 P理論とイベント	4 Pについて学び、イベントの位置づけについて理解する
4	サービス財とイベント	サービス財におけるイベントの重要性を理解する
5	産業財とイベント	産業財におけるイベントの重要性を理解する
6	ブランドとイベント	ブランドの構築にイベントがどうかかわっているかを考える
7	コーズマーケティング	コーズマーケティングの観点からイベント戦略を考える
8	ケーススタディ 1	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
9	ケーススタディ 2	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
10	ケーススタディ 3	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
11	ケーススタディ 4	事例を通じてイベント戦略を学ぶ
12	チームスタディ 1	チームスタディを通じてイベント戦略を学ぶ
13	チームスタディ 2	チームスタディを通じてイベント戦略を学ぶ
14	チームスタディ 3	チームスタディを通じてイベント戦略を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて、その都度、プリントを配付する。

◇参考書：井原久光『ケースで学ぶマーケティング（第2版）』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇日頃からイベントに絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジメをあらかじめ読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇日本経済新聞、その他主要経営・経済関係誌などを読む習慣をつけること。

<h2 style="margin: 0;">イベントプロデュース論 I</h2>	<small>オオヤマ トシエイ</small> 大山 利栄
Theory of Event Production I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「プロデュース」とは、思いついた SEED（種）を具体的に世に出し、社会化するまでの一連の行為であり、これから社会で活躍する人材を育てる上での重要なキーワードです。

とくにイベントは、臨時に組織を組んで行われる特別な行事・催事が多いことから、イベントプロデューサーにはさまざまな資質と能力が要求され、多様な機能と役割が求められます。これまで暗黙知として取り扱われてきたプロデュース行為をプロセスや要素をもとに再現可能なテクノロジーとして形式知化し、新たな人材育成プログラムとして適応させます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントプロデュースに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 プロデュースとは何か、プロデューサーに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いプロデュースカテゴリーについて説明できる	設問に対する回答によって評価。 カテゴリーごとに成立する機能と役割について基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	設問に対する回答によって評価。 実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	イベントにおけるプロデュースとは
2	プロデューステクノロジー	プロデューステクノロジーの構造
3	サプライズ①	驚き発想
4	サプライズ②	感動発想
5	ビジネスモデル①	プロフィットモデル
6	ビジネスモデル②	プロフィットモデル
7	プロジェクトマネジメント	プロジェクトの管理とは
8	プロジェクトマネジメント	プロジェクトの管理法
9	リスクマネジメント①	イベントにおけるリスク管理法
10	リスクマネジメント②	イベントにおけるリスク管理法
11	ファン①	ファンの構造と仕掛け
12	ファン②	ファンの構造と仕掛け
13	ブーム①	ブームの構造と仕掛け
14	ブーム②	ブームの構造と仕掛け
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、必要に応じテキスト、資料を配布します。

【履修条件等】

◇「イベント学概論」を履修している方が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<h2 style="margin: 0;">イベントプロデュース論Ⅱ</h2>	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Theory of Event Production II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントのプロデュース機能とは「そのイベントの目指すべき全体像を構築し、さまざまな要素や条件の調整を行いながら、種々の制約の中で最も効果を高めるよう、それらをひとつのシステムとして組み上げていく機能」です。イベントもひとつのプロジェクトであり、経済活動です。目的と目標を掲げ、予算を組み立て、適材適所に人材を配置し臨時の組織を統率し、総責任者としてプロジェクトを遂行させるプロデュースという業務について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントプロデュースに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 プロデュースとは何か、プロデューサーに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いプロデュースカテゴリーについて説明できる	設問に対する回答によって評価。 カテゴリーごとに成立する機能と役割について基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	設問に対する回答によって評価。 実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	人を動かすプロデュース
2	イントロダクション②	人を動かすプロデュー
3	参加型イベント①	参加型イベントのプロデュース
4	参加型イベント②	参加活性化イベントのプロデュース
5	地域型イベント①	地域活性化イベントのプロデュース
6	地域型イベント②	地域活性化イベントのプロデュース
7	イベントショップ①	イベントショップのプロデュース
8	イベントショップ②	イベントショップのプロデュース
9	イベントセールス①	イベント型売り場のプロデュース
10	イベントセールス②	イベント型売り場のプロデュース
11	学び型イベント①	講座・セミナーのプロデュース
12	学び型イベント②	講座・セミナーのプロデュース
13	行列イベント①	行列のプロデュース
14	行列イベント②	行列のプロデュース
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、必要に応じテキスト、資料を配布します。

【履修条件等】

◇「イベント学概論」および「イベントプロデュース論Ⅰ」を履修している方が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベント企画	オク 奥	マサタカ 正孝
Event Planning		基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは「驚きと感動」を生みます。その企画には、創造性が大切です。社会や人々へサプライズを与えるアイデア、マンネリを打破する発想が求められます。イベント企画の「発想法」を徹底的に学習します。イベント企画の基本ベースフォーマット（型）に、「6W2H」の展開があります。企画書作成により、イベント企画ばかりでなく、地域の活性化、新商品開発など、さまざまな企画づくりの基本を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント関連の専門用語を正しく理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの定義、イベントの種類・形態、イベントに関わる構成要素に関する用語を答えられる。	20%
イベントと社会との関係性、役割を理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの主催者、制作者、参加者の3者の視点から、イベントの持つ価値や評価を答えられる。	20%
イベント企画の構成要素について理解できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの基本的な構成要素と、その構造について答えられる。	30%
イベント企画の目標と目的について理解し企画のポイントを判断できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの目指すもの、それへの到達のための設 計図について理解し、イベント企画成功のための 要点を答えられる。	30%
評価の方法 毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イベント企画とは	イベント企画について
2	〃	〃
3	イベント企画①発想力	イベントアイデア発想法
4	〃	〃
5	イベント企画②骨格力	イベントの構造 6 W 2 H
6	〃	〃
7	イベント企画③分析力	イベント企画のマーケティング
8	〃	〃
9	イベント企画④目的力	イベント企画のゴール
10	〃	〃
11	イベント企画⑤集客力	イベントへの集客法
12	〃	〃
13	イベント企画⑥構成力	イベント企画書のまとめ方
14	〃	〃
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベント実施・運営論	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Event Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベント学は現実的な学問です。イベントの基本的な構成要素は6W2Hで表すことができますが、その6W2Hに沿っていざ実現しようとする理想と現実のギャップに直面し、さまざまな課題が生まれなかなか難しいものです。企画通りにすべてがスムーズに行くことの方が少ないと言っても過言ではありません。

しかし、“驚きと感動”を創るには、不可能を可能にする知恵と行動力が求められます。イベント実施運営を学んで実社会で直面する課題に対応する力をつけ、プロジェクトを実現できる人材を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント関連の専門用語を正しく理解し開設できる	設問に対する回答によって評価。 イベント実施運営に関する専門用語を答えられる。	20%
イベントと社会の関係性、役割を理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 主催者、制作者、参加者の3者の視点からイベントの実施運営について答えられる。	20%
イベント実施運営の構成要素について答えられる	設問に対する回答によって評価。 イベント実施運営の基本的な構成要素と、その構造について答えられる。	30%
イベント実施運営の目標と目的について理解している	設問に対する回答によって評価。 運営マニュアルについて理解し、イベント実施運営が成功するためのポイントが答えられる。	30%
評価の方法 授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	イベントにおける実施運営の大切さ
2	6W2Hの考え方①	イベントの基本構造
3	6W2Hの考え方②	イベントの基本構造
4	企画を実現するために①	不可能を可能にするために
5	企画を実現するために②	不可能を可能にするために
6	イベント会場の選定	イベント会場の種類と考え方
7	受付の考え方	スムーズに受付業務とは
8	客席の考え方	スクール、シアター、着席、buffetの違いと目的
9	イベントスタッフ	イベントに関わるスタッフの種類と違い
10	キャスティング	イベントゲストの選定と交渉
11	運営計画①	運営計画の考え方
12	運営計画②	運営計画の考え方
13	運営マニュアル①	運営マニュアル制作
14	運営マニュアル②	運営マニュアル制作
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。必要に応じて資料配布する。。

【履修条件等】

◇「イベント学概論」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベントキャリア基礎	キタハラ ユタカ 北原 隆
Events & Career Advancement	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントキャリア教育の基本は、学生がイベントの世界に進むための基礎固めです。望ましい職業観を持ち、そのための知識や技術とは何かを理解できるようにします。どのように日常生活を送ることが、将来のキャリア形成につながるか理解を求めます。イベントには多種多様な業種の人達が、さまざまなアプローチで関わります。その基本にあるのは人間関係であり、信頼関係です。イベントの世界でキャリアを築いていくために必要なルールや常識の基本を理解するプログラムです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントを仕事にすることを理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントの仕事の内容と流れを知り、そこに关わる多くの人達の存在を知り、説明できる。	15%
イベント業界を説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント業のカテゴリー別の職種について知り、基本的な機能と役割を答えられる。	15%
イベントプランニングに必要な発想手法を身につける	15分間プランニングに対する回答によって評価。 発想へのアプローチの多種多様さを知り、画一的な発想から脱却する。またその喜びを知る。そしてその発想を提案できる。	40%
イベントキャリアの大切さを表現できる	レポートによって評価。 イベントキャリアを通して身につくこと、学べる価値を自分の言葉で表現できる。	30%
評価の方法 日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	遊びが仕事で仕事遊び	イントロダクション 北原講師の仕事
2	横すべりのススメ	面白そうなことには積極的に首を突っ込む
3	さまざまな現場スタイル	入る現場での服装の違い スーツを着ない理由
4	専門用語	プロっぽく話す
5	現場の話	プロデューサーとディレクターの違い
6	ナンバーワンになる	カニをむくのが上手いやつ
7	何でもありありルール	ボツはバツじゃない
8	初めて出くわす事態	どうしようではなくて
9	会社の辞め方	辞める前にやっておくこと
10	爪痕を残さず	落ちるためのプレゼンテーション ウケ狙いは悪くない
11	差し入れ&お弁当	現場での食生活
12	大人が買いたいグッズ	鍵の開かない鞆を売る
13	情報の拾い方	ひとと違う雑誌を読む
14	現場での付き合い	職人さんはワザの宝庫 受付に花
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。
- ◇巻尺。

【履修条件等】

- ◇イベントに興味を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと
- ◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<h1>イベント法務</h1>	サトウ ジュン 佐藤 潤
Event Law and Practice	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

- ・ イベントとは何かを理解する。
- ・ イベントを企画・実施するに際し、必要な知識を身につける。とくに企画・実施にあたり必要な法律や規則を十分に理解する。
- ・ イベントに関係の深い警察、消防、保健所、さらには労働基準監督署、建築指導課公正取引委員会など関係監督組織の法令と運用を事例より具体的に学んでいく。
- ・ イベントにおけるリスクマネジメントについてその事例と対応について学ぶ。
- ・ イベントにおける著作権、商標、肖像権などの知的所有権の知識も深める
- ・ 上記を学ぶにあたり、スポーツイベントの事例を参考に学習していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントに関する法律を理解する	授業レポートにより評価する。 イベントにおける法規制と、関連するメディアや広告の法規について理解できたか。	30%
イベントに関連する権利と関連リスクの構造と対応方法を理解する	授業レポートにより評価する。 イベントに関連するさまざまな知的財産権とその活用について理解し、一方で想定されるトラブル・リスクを認識し対応方法を理解できたか。	30%
スポーツイベントの構造を理解し権利とトラブルへの対応を理解する	授業レポートにより評価する。 スポーツイベントの企画・実施にあたり規制法規や権利行使の要点を理解できたか。	30%
コンプライアンスを理解する	レポート提出により評価する。 企業活動において市民社会の一員としての規範を理解する。	10%
評価の方法 毎回のレポート（授業中の最後に記入）60%、テスト40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	これから学ぶイベントと法務の全体像をつかむ
2	実務法規Ⅰ(メディア)	メディアに関わる法務の概要を学ぶ
3	実務法規Ⅱ(広告)	広告に関わる法務の概要を学ぶ
4	広告に関わる権利Ⅰ	景品表示法と不正競争防止法について学ぶ
5	広告に関わる権利Ⅱ	著作権と肖像権について学ぶ
6	広告に関わる権利Ⅲ	産業財産権と全体の構造について学ぶ
7	広告に関わる権利Ⅳ	命名権、商品化権他について学ぶ
8	前半のまとめと復習	イベント法務の全体像についてきちんと理解したか確認する
9	イベント実務法規Ⅰ	イベントの企画・制作・運営の構造について学ぶ
10	イベント実務法規Ⅱ	イベント実施に関わる法規制について学ぶ
11	イベント実務法規Ⅲ	イベント実施のリスクとリスクマネジメントについて学ぶ
12	スポーツイベントⅠ	権利ビジネスとしてのスポーツマーケティングを学ぶ
13	スポーツイベントⅡ	サッカー日本代表を例に権利の活用の実際を学ぶ
14	スポーツイベントⅢ	東京2020の権利構造と課題について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。授業時にオリジナル資料を配布します。

◇参考書：平野暁臣著『イベントの実務がよくわかる本』イースト・プレス

『イベント・プロフェッショナル～イベント業務管理士共通スキル公式テキスト』Ⅰ、Ⅱ (社)日本イベント産業振興協会

※その他テーマに応じて適宜紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞や雑誌、テレビなどで日本と世界の社会情勢やイベントの動きをチェックしてください。

とくに2020東京オリンピック・パラリンピック関連や2019ラグビーワールドカップのニュースは興味を持ってみてください。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に小レポートを提出してもらいます。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h1 style="margin: 0;">入門簿記 I</h1>	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示します。
- ◇参考書：開講時に指示します。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記 I</h2>	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間試験および解説	
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する可能性もある。

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数分の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記Ⅱ</h2>	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示します。
- ◇参考書：開講時に指示します。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は原則として、「入門簿記Ⅰ」を履修済みの者、あるいは高等学校在学時にすでに簿記の学習を経験済みの者を対象としており、ほぼ日商簿記検定3級の範囲の商業簿記を取り扱う。具体的には商品売買、売掛金と買掛金、手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産、資本（純資産）などの個別論点と、収益・費用の見越・繰延を含む期末の決算整理手続、および8桁精算表の作成と財務諸表の作成である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。	20%
日々の取引を仕訳できるようにする	設問に対する回答によって評価。個別論点について取引の内容を仕訳で示すことができること。	50%
決算整理事項を理解し、財務諸表を作成できるようにする	設問に対する回答によって評価。決算整理事項の内容を理解し、費用および収益の見越しや繰延べを含んだ決算整理手続ができ、8桁精算表および財務諸表を作成できること。	30%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法などの説明、「入門簿記Ⅰ」の復習
2	商品売買取引(1)	仕入・売上、値引き・返品、仕入帳・売上帳など
3	商品売買取引(2)	内金の処理、商品券、売上原価と売上総利益の計算
4	手形	約束手形、為替手形、裏書譲渡、割引
5	貸倒れと貸倒引当金	貸倒れとは、貸倒損失、貸倒引当金の見積りなど
6	売買目的有価証券	有価証券の種類、有価証券と利息・配当、売買目的有価証券の購入・売却・期末評価
7	有形固定資産	固定資産の購入・売却、減価償却費の計上
8	中間試験および解説	
9	その他債権・債務	貸付金・借入金、仮払金・仮受金、立替金・預り金など
10	その他の取引	資本金と引出金、税金の処理、消耗品
11	決算(1)	試算表の作成、費用・収益の繰延べ
12	決算(2)	費用・収益の見越し、演習
13	決算(3)	決算整理事項と決算整理仕訳、精算表の作成
14	総復習	精算表作成演習、損益計算書と貸借対照表の作成など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」をすでに履修済みか同程度の知識を有することを履修の条件とする。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけないため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりとし、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

- ◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

専門演習 I	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Specialized Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマは、企業が行うさまざまなプロモーションイベント、PRイベントを中心としたイベントプロデュースです。新製品キャンペーンや記者発表、ファッションショーなど多彩なイベントを学びます。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（授業参加度況・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	大学祭テーマ制作
7	イベント課題解決ワークショップ	22	大学祭テーマ制作
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会の準備
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会の準備
11	イベント企画リハーサル	26	ゼミ発表大会の準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	ゼミ発表大会のリハーサル
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題に対する次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習 I	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Specialized Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：2020東京オリンピック・パラリンピックを頂点とする「スポーツ&ゲームイベント」を取り扱います。

演習では、「専門演習 I」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習 I	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Specialized Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	地域イベントテーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	地域イベントテーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	地域イベントテーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	地域イベントテーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	地域イベントテーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマは、企業が行うさまざまなプロモーションイベント、PRイベントを中心としたイベントプロデュースです。新製品キャンペーンや記者発表、ファッションショーなど多彩なイベントを学びます。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（授業参加度況・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	大学祭テーマ制作
7	イベント課題解決ワークショップ	22	大学祭テーマ制作
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会の準備
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会の準備
11	イベント企画リハーサル	26	ゼミ発表大会の準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	ゼミ発表大会のリハーサル
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題に対する次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：2020東京オリンピック・パラリンピックを頂点とする「スポーツ&ゲームイベント」を取り扱います。

演習では、「専門演習Ⅰ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Specialized Seminar II	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	地域イベントテーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	地域イベントテーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	地域イベントテーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	地域イベントテーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	地域イベントテーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマは企業が行う様々なプロモーションイベント、PRイベントを中心としたイベントプロデュースです。

演習では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法 演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題に対する次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：2020東京オリンピック・パラリンピックを頂点とする「スポーツ&ゲームイベント」を取り扱います。

演習では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	オク 奥	マサタカ 正孝
Specialized Seminar III		基本科目／通年／4単位

【授業概要】

【研究テーマ】：観光振興による地域の活性化

観光は、地域の資源を活用し観光資源に育て「観る」「聞く」「香る」「食べる」「体験」五感を、「見える化」し、「旅する」(交通)「泊まる」「買物する」「遊ぶ」を体感しその場面場面をイベント化して「わかりやすく」「楽しく」することで記憶に残るツーリズムを提案する。

演習では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」およびイベント実習で得た経験をイベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他のゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さ）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んで下さい。大人として自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Specialized Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

「専門演習Ⅲ」ではこれまでの「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の取り組みをまとめ、論文や発表といった形に集約していくことを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	研究・論文の進め方ガイダンス
2	研究・論文テーマガイダンス	17	論文のまとめ方レクチャー①
3	研究・論文テーマ検討①	18	論文のまとめ方レクチャー①
4	研究・論文テーマ検討②	19	論文のまとめ方レクチャー①
5	研究・論文テーマ発表	20	研究・論文指導①
6	研究・調査方法レクチャー①	21	研究・論文指導②
7	研究・調査方法レクチャー②	22	研究・論文指導③
8	研究・調査方法レクチャー③	23	研究・論文指導④
9	研究・調査準備①	24	研究・論文指導⑤
10	研究・調査準備②	25	研究・論文指導⑥
11	研究・調査準備③	26	研究・論文指導⑦
12	研究・調査準備④	27	研究・論文指導⑧
13	研究・調査進捗報告①	28	研究・論文発表①
14	研究・調査進捗報告②	29	研究・論文発表②
15	まとめ	30	まとめ

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

卒業論文	
Graduation Thesis	基本科目／通年／2単位

【授業概要（内容、到達、教授法）】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

1、2週間に1回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、2・3年次（3年次編入生は3年次のみ）に「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の単位を修得したもの。

提出締切日：平成31年1月11日（金） 15:00まで

提出先：学務部

【授業計画】

<春学期>

1. 卒業論文の作成概要指導
2. 各自のテーマ決定の確認・助言
3. 論文の形式、構成の指導
4. テーマに関する資料・情報の収集法指導
5. 論文作成（中間）の指導
6. 中間発表

<秋学期>

1. 夏期休暇中の研究成果の確認
2. 論文完成に向けての指導
3. 最新のデータとの照合
4. 論文要旨に対するディスカッション
5. 論文の完成・最終稿のチェック
6. 卒業論文発表会

流通論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとCVSについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとSPAについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える3PL
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『1からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

流通論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機SCMなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ICT化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるICT機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、SCMの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるICT活用の展開	ICTの導入、流通ICT化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

- ◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。
- ◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

消費者行動論 I	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

消費者は、どのようなことを考え、どのように購買行動を行っているのでしょうか。消費者行動は、経営学をはじめとして、心理学、社会学、行動経済学等、広い分野と関わっています。この授業では、消費者行動の基本的な理論を学びながら、事例をもとに理解を深めていきます。

また、企業が国内外でマーケティング活動を行うためには、その国・地域の文化や消費者行動を理解する必要があります。最近の事例を通して、マーケティングについても学んでいきます。

事例や課題への取り組み等の参加型の授業を通して、自分達で考えながら理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と、主な研究方法について、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動に対する基本的な考え方、消費者行動研究の主要なアプローチ方法を理解し、答えられること。	30%
消費者行動に影響を与える内的・外的要因について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の知覚、記憶、態度形成等について理解し、答えられること。 消費者行動が周囲の人々や社会から受ける影響要因について理解し、答えられること。	30%
企業の経営企画・マーケティング活動と消費者行動の関連を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動を理解することが、企業のマーケティング活動にどのように関わるのか、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、内容について、消費者行動とは何か
2	研究の主要アプローチ方法	消費者行動研究の主な理論とモデル
3	消費者の知覚	消費者の知覚のプロセス等
4	消費者の記憶	消費者の記憶のプロセス
5	消費者の知識と記憶	消費者の知識・記憶
6	消費者の個人特性	消費者の個人特性
7	意思決定プロセス	消費者の意思決定プロセス
8	問題認識・情報探索	問題認識段階と情報探索段階
9	選択評価	選択・代替品の評価
10	購買意思決定	購買意思決定と状況要因
11	購買後の評価	購買後の評価とその影響
12	消費者行動と文化(1)	文化による影響
13	消費者行動と文化(2)	文化に適合させた製品開発事例について
14	消費者調査	マーケティング・リサーチの主な手法と事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）
- ◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

- ◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。
- ◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守）。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。
- ◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因について解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意味決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	購買後の心理と次購買へ与える影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な理論の理解を踏まえ、消費者行動に関する社会的、文化的、個人内要因の理解を深めていきます。

また、データ分析をもとにした消費者行動分析について学び、データ分析や観察を通して、理解を深めていきます。さらに、消費者行動の分析が企業のマーケティングに活用されている事例から、マーケティング活動との関連についての理解も深めていきます。

最近の動向や事例を通して、考えながら、消費者行動を理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動のプロセスを説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動のプロセスについて、研究事例および自分自身の行動と関連させて理解し、説明できること。	20%
消費者行動の影響要因を理解し、自分の行動に関連して説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者を取り巻く外的および個人内要因が消費行動に与える影響について、自分の行動と関連させて理解し、説明できること。	40%
企業のマーケティング活動との関連を説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動と企業のマーケティング活動の関連を、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、授業内容について
2	消費者行動の影響要因	意思決定の主要モデルとさまざまな要因について
3	外的要因	消費者を取り巻く外的要因と影響
4	内的要因	消費者の個人属性、ライフスタイルと消費行動
5	消費者行動とリサーチ(1)	質的調査の主な手法について
6	購買前行動・状況要因	計画購買と非計画購買
7	非計画購買	非計画購買の行動観察
8	購買後評価とその影響	購買後の評価、購買後の評価の影響
9	無店舗販売と消費者行動	無店舗販売における影響要因と購買後評価
10	消費者行動とリサーチ(2)	量的調査の主な手法について
11	マーケティング活動の影響	マーケティング活動が消費者行動に与える影響
12	マーケティング事例(1)	広告の役割・効果、ブランド・イメージ等
13	マーケティング事例(2)	消費者行動を考慮したマーケティング戦略の事例
14	最新の消費者行動研究の動向	観察法、ビッグデータ分析などの最近の事例を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）
- ◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

- ◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。
- ◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守）。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。
- ◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方や専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方やアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること	25%
消費者行動にみられる近年の変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

経営心理学	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは具体的に、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学」では、職業適性と採用、労働を考えるワークモチベーション、集団と組織、組織でのコミュニケーション、仕事の能率と安全の観点から詳しく解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性と採用	「自分はどのような職業に向いているのか」という職業適性の概念を理解し、自分の能力・パーソナリティから職業適性を考え、企業に必要とされる人材像を理解する。	20%
労働の心理学	働くための動機づけに関する歴史的経緯から、科学的管理法、ホーソン研究、職務満足、プロセス理論を理解し、経営者の人間観と働く人のワークモチベーションを理解する。	30%
組織心理学	集団を形成し、組織に参加していく過程から、形成された組織・集団その内部に作り出す人間関係とコミュニケーション、コンフリクト、意思決定システム、職場ストレスを理解する。	30%
仕事の能率と安全	産業場面における時間研究と動作研究から、心理的な時間感覚を理解し、人間の疲労や認知的エラーによって引き起こされるヒューマンエラーをなくし、作業現場での事故防止を考える。	20%
評価の方法 本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	職業適性と採用(1)	人間の能力とは、知能と職業との関係
3	職業適性と採用(2)	パーソナリティとは、パーソナリティと面接
4	ワークモチベーション	仕事への外発的動機づけと科学的管理法
5	ワークモチベーション	仕事への内発的動機づけと職務満足
6	ワークモチベーション	仕事への達成動機、組織コミットメント
7	組織・集団(1)	職場集団の特性
8	組織・集団(2)	職場の人間関係と対人認知
9	組織・集団(3)	組織におけるコミュニケーション
10	組織・集団(4)	組織におけるコンフリクトと意思決定
11	職場の快適性と疲労(1)	職場ストレスとその対処
12	職場の快適性と疲労(2)	職場環境とハラスメント
13	仕事の能率と安全(1)	時間研究と動作研究
14	仕事の能率と安全(2)	ヒューマンエラーと事故防止対策
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久著『一経営とワークライフに生かそう
一産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2012年。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してこること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

<h2>ヒューマンエラーの心理学</h2>	ミヨシ ヨウスケ 三好 陽介
Psychology of Human Error	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスにおいてさまざまな意思決定を行うためには、メリットとデメリットを適切に比較することが必要になります。その際、意思決定に必要な情報が揃っていることはほとんどなく、多くの場合は不十分な情報をもとに判断することになります。

この授業では「リスク」について、1)不確実な将来を、現時点で評価するための方法と、2)起きてしまっは困る事態に対して、どのように備えるか、の2つの観点から考えます。各回の授業では講義のほか演習を行い「リスク」について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) リスクの種類と重要度についての理解	講義内容を理解し、リスクの種類と重要度についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2) 「現在価値」についての理解	講義内容を理解し、「現在価値」という概念についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3) リスクの予防や対策についての理解	講義内容を理解し、リスクの予防や対策についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4) リスクマネジメントを踏まえた意思決定についての理解と実践	上記、学習・教育目標の1)2)および3)をふまえた基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席：最低でも75%（12回）以上出席すること。 ・ 評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。 		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	
2	模擬交渉(1)準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
3	模擬交渉(2)交渉	
4	リスクの見きわめ	たくさんある「リスク」のうち、どれを重視して対応すべきかを考える
5	確率についての基礎	確率と確率分布の基礎について
6	将来価値と現在価値	将来価値とリスク、現在価値についての基礎
7	演習：現在価値の算定	ベンチャー企業を、いくらで買収するか考える
8	リスクの予防とダメージコントロール	リスクへの対策として1)予防と2)ダメージコントロールの2つの視点から考える
9	メリットとデメリット	メリットとデメリットをどうみつけるか
10	メリット・デメリットと意思決定	メリットとデメリットを比較して意思決定する方法
11	リスクを低減して未来を切り拓く	リスクに適切に対策し、デメリットを低減して成功確率を上げるための考え方
12	模擬交渉(3)準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
13	模擬交渉(4)交渉	
14	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

◇成績評価の前提である、最低出席率（75％）を満たすこと。

◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。

コンテンツビジネス論 I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Content Business Theory I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽・ゲーム…といったエンタテインメントコンテンツが経済的価値を生み出すという認識が高まっており、「クールジャパン」の名の下に、日本政府も戦略的産業領域と位置づけています。しかしこうした分野のマーケティングに関する理論的な先行実績は乏しく、これからの研究分野とされています。ここでは、作品および事例を見ながら、実践的な取り組み方を一緒に考えてみたいと思います。また、「コンテンツ体験」をキーワードとした新たな戦略についても考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツビジネスの概要や影響力について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解し、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	20%
コンテンツのマーケティング独自の考え方について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
コンテンツ体験の持つ意義とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%

評価の方法

評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンテンツとは何か	作品型、知識型、ライブ型、データ型、海外動向
2	コンテンツビジネスの現状と展望	映画、音楽、放送、出版、ゲーム業界の状況
3	コンテンツ消費の実態と特性	ソーシャル視聴、つながり消費、波及関連消費
4	無形性からのアプローチ	ブランド化、エントリー商品、有形化
5	可変性からのアプローチ	マルチユース、バンドリング、クロスメディア
6	芸術性からのアプローチ	スポンサード、アーティスト活用、希少価値化
7	権利性からのアプローチ	ライセンスング、権利保護、二次利用
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	偶有性への対応戦略	関心拡張、既知情報の活用、未知の創出
10	嗜好選択性への対応戦略	ターゲット戦略、選択肢多様化、異文化対応
11	コンテンツ体験の創造①	「見る・聴く・読む」消費観からの解放
12	コンテンツ体験の創造②	近代以前のコンテンツ接触スタイルの見直し
13	コンテンツ体験の創造③	模倣・追体験、応援的関与、制作参加
14	コンテンツ体験の創造④	ファンダム、二次創作促進、まとめ
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：山川悟他著『コンテンツマーケティング』同文館出版
山川悟他著『コンテンツがブランドを創る』同文館出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。
- ◇映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽などに興味があること。
- ◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなど日本文化についての知識を深めておくこと。
- ◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

コンテンツビジネス論 II	ヤマカワ サトル 山川 悟
Content Business Theory II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は「コンテンツビジネス論 I」の発展的応用として「コンテンツを活用したビジネス」について学びます。前半はコンテンツを活用した商品開発・広告宣伝・地域開発の事例を通じ、コンテンツの持つコミュニケーション効果について確認します。後半は、日本文化の特性を今日のビジネスに活かす方法論について考察し、真の「クールジャパン」とは何かについて議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツを活用したマーケティング手法とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツ活用マーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
日本文化と今日のビジネス発想について、その意義と方法論について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた文化アプローチマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法		
評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	コンテンツ活用への考え方	概論、ケーススタディ
2	コンテンツと商品開発	タイアップ、世界観商品、独自ストーリー
3	コンテンツと広告宣伝	ブランデッドエンタテインメントの方法論
4	コンテンツと地域ブランディング	聖地巡礼、地域アニメ、伝説・民話・偉人活用
5	キャラクターマーケティング	キャラクターとは何か、活用事例研究
6	ゲーム活用マーケティング	ゲーム内広告、ARG、ソーシャルゲーム活用
7	スポーツコンテンツ論	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	日本文化と今日のビジネス①	江戸の商いの近代性、文化アプローチについて
10	日本文化と今日のビジネス②	「あはひ(間)」の概念と今日のビジネス
11	日本文化と今日のビジネス③	「かぶく(傾く)」の概念と今日のビジネス
12	日本文化と今日のビジネス④	「むすび」の概念と今日のビジネス
13	日本文化と今日のビジネス⑤	「見立て」の概念と今日のビジネス
14	日本文化と今日のビジネス⑥	「らうたし」の概念と今日のビジネス
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：山川悟他著『コンテンツがブランドを創る』同文館出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。
- ◇コンテンツおよび日本文化に興味があること。
- ◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなど日本文化についての知識を深めておくこと。
- ◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

<h2 style="margin: 0;">イベントキャリア開発</h2>	キタハラ ユタカ 北原 隆
Event Career Improvement	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントキャリア開発は、学生がイベントの世界に進むための基礎からの発展です。職業観を持ち、そのための知識や技術とは何かを理解した上で、イベントのプロの目を持って日常生活を送ることの大切さについての理解を求めます。

イベント制作の全体的な管理においての、予算やコストや経済性についてもその基本を理解し現場に通用する、ルールに裏付けられた知識を身につけます。

イベントに関わる多くのプロ達の中に立ち、キャリアを築いていくために必要な技術や考え方を身につけるためのプログラムです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント演出の基本を説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント現場の演出の基礎（音響、照明、映像、美術など）を理解し、その仕組みに関して説明できる。	15%
イベント制作の基本を説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント制作の全体的な管理（ヒト、モノ、カネ、リスクなど）を理解し、その仕組みに関して説明できる。	15%
イベントプランニングに必要な発想力を身につける	15分間プランニングに対する回答によって評価。 発想へのアプローチの多種多様さを身につけ、画一的な発想から脱却してさらに自分の発想力を高める。そしてその発想を提案できる。	40%
イベントのプロとして自分の目指すキャリアのビジョンを表現できる	レポートによって評価。 イベントキャリアを重ねていくことの意義と、目指す目標について自分の言葉で表現できる。	30%
評価の方法 日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	北原講師の仕事
2	舞台とステージ	ライブとは 演劇とロック
3	光と色のはなし	RGB と CMYK 光と色の仕組み
4	ロゴ& CI について	使用規定って何
5	照明について	光と陰と 演出効果
6	音響について	ライブとデッド 本当に聞こえています？
7	映像について	LED パネル プロジェクター
8	美術について	大道具 小道具 見つけ出す力
9	現場管理と運営マニュアル	備品管理 荷物リストは最重要
10	進行台本とセットリスト	オンタイム？ アンコールやりすぎて怒られる
11	予算の話	はこび・しまい・バラシ
12	経済寸法	材料にはサイズがある
13	搬入計画	搬入口と搬入経路について
14	プレゼンテーション	効果的な手法 安全な手法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。
- ◇巻尺。

【履修条件等】

- ◇幅広くイベントに興味を持ち、知識を深めたいと考えていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。
- ◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<h1>イベント実習 I</h1>	<small>オオヤマ トシエイ</small> 大山 利栄
Event Practice I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。

イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。

「イベント実習 I」は、イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び、「就業力」を身につけます。

「イベント実習 I」は、「イベント実習 II」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

- (1)原則2年次に4ステップの実習を行う。（「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」それぞれ2ステップ）
- (2)期間全体を4区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。
- (3)ステップについて（「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ）
ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習
ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学
ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習
ステップⅣ：イベント現場実習の総括
- (4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。
各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。
- (5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇なし。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは厳禁です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習 I	オク 奥	マサタカ 正孝
Event Practice I	応用科目／半期／2単位	

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習 I」は、イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び、「就業力」を身につけます。

「イベント実習 I」は、「イベント実習 II」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

- (1)原則2年次に4ステップの実習を行う。（「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」それぞれ2ステップ）
- (2)期間全体を4区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。
- (3)ステップについて（「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ）
ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習
ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学
ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習
ステップⅣ：イベント現場実習の総括
- (4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。
各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。
- (5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・夏季休暇・冬期休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h1>イベント実習 I</h1>	<small>シヅカ マサノリ</small> 志塚 昌紀
Event Practice I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習 I」は、イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び、「就業力」を身につけます。

「イベント実習 I」は、「イベント実習 II」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

- (1)原則2年次に4ステップの実習を行う。（「イベント実習Ⅰ」、「イベントⅡ」それぞれ2ステップ）
- (2)期間全体を4区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。
- (3)ステップについて（「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ）
ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習
ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学
ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習
ステップⅣ：イベント現場実習の総括
- (4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。
各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。
- (5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

- ◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。
- ◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。
- ◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h2 style="margin: 0;">イベント実習Ⅱ</h2>	<small>オオヤマ トシエイ</small> 大山 利栄
Event Practice II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。

イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。

「イベント実習Ⅱ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇なし。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅱ	オク 奥 マサタカ 正孝
Event Practice II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」、「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

- (1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う(下記参照)。
- (2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。
- (3)ステップについて
ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習
ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学
ステップⅢ：イベント現場の体験実習
ステップⅣ：イベント現場実習の総括
- (4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。
各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。
- (5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC(パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

- ◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。
- ◇「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

- ◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。
- ◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。
- ◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h2>イベント実習Ⅱ</h2>	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Event Practice II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」、「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（出席・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅲ	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Event Practice III	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅲ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅲ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（出席・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅲ	オク 奥	マサタカ 正孝
Event Practice III		応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅲ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅲ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（出席・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

- (1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う(下記参照)。
- (2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。
- (3)ステップについて
ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習
ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学
ステップⅢ：イベント現場の体験実習
ステップⅣ：イベント現場実習の総括
- (4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。
各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。
- (5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC(パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

- ◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。
- ◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

- ◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。
- ◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。
- ◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅲ	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Event Practice III	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。

「イベント実習Ⅲ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

- (1)原則2年次に4ステップの実習を行う。（「イベント実習Ⅰ」、「イベントⅡ」それぞれ2ステップ）
- (2)期間全体を4区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。
- (3)ステップについて（「イベント実習Ⅲ」ではステップⅠ、Ⅱ）
ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習
ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学
ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習
ステップⅣ：イベント現場実習の総括
- (4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。
各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。
- (5)「イベント実習Ⅲ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

- ◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。
- ◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。
- ◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h1>イベント実習Ⅳ</h1>	<small>オオヤマ トシエイ</small> 大山 利栄
Event Practice IV	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅳ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（出席・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅳ	オク 奥	マサタカ 正孝
Event Practice IV	応用科目／半期／2単位	

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅳ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（出席・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う(下記参照)。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC(パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h2 style="margin: 0;">イベント実習Ⅳ</h2>	<small>シヅカ マサノリ</small> 志塚 昌紀
Event Practice IV	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」、「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う(下記参照)。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h1>イベント管理会計</h1>	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Event Management Accounting	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントにおける管理会計とは、それぞれのイベント単体での予算管理（Budgeting）と原価計算（Costing）のことを指します。製品製造とは大きく趣が異なり、それぞれのイベントごとに科目や単価が大きく違うため、イベントの性質や内容を正しく理解することが非常に重要となってきます。また、イベント全体の予算において各パートごとの予算配分によっては結果的に大きな差となってクライアントからの評価に繋がるケースも多くあります。ここでは具体的なケースを基に、リスクマネジメントも視野に入れながら各パートの原価を割り出し、最適なイベントの実施に向けた管理会計を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントにおいて必要な基礎項目と役割について理解すること	さまざまなイベントにおいて、それぞれ必要な各専門パートについて正しく理解し、その役割とポジショニングについて答えられること。	30%
イベントにおける管理会計と原価計算の基礎知識を理解すること	さまざまなイベントにおいて、必要なパートごとの原価項目を学び、正しい発注と適正な収益管理に関する基本問題に答えられること。	20%
各パートごとの予算感とそれぞれの原価について正しく理解すること	イベント会場の特性や広さによって、またイベントの種類や目的によって必要な各パートの予算感が変わることを理解し、予算の組み立てについて大まかに答えられること。	20%
イベントにおけるコスト管理に必要な原価計算の方法を正しく理解すること	標準的なコスト管理と適正な原価計算、リスクヘッジを含めた予算の構築などについて正しく理解し、基本的なイベントの予算と管理会計について答えられること。	30%
評価の方法 授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	
2	原価計算	原価計算の目的、原価計算のステップ
3	役割と原価項目(1)	美術施工
4	役割と原価項目(2)	音響、照明、映像装置、特殊効果
5	役割と原価項目(3)	演出パートと運営パート
6	役割と原価項目(4)	その他の役割
7	管理会計(1)	イベントにおける管理会計
8	管理会計(2)	原価と利益計画の考え方
9	意思決定会計(1)	イベントにおける業務的意思決定(1)
10	意思決定会計(2)	イベントにおける業務的意思決定(2)
11	意思決定会計(3)	イベントにおける戦略的意思決定(1)
12	意思決定会計(4)	イベントにおける戦略的意思決定(2)
13	予算構築	イベント予算の組み立て
14	予算構築	イベント予算の組み立て
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず。授業時に資料、教材を配布します。
- ◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

- ◇「イベント学概論」、「イベントプロデュース論Ⅰ」、「イベントプロデュース論Ⅱ」、「イベント企画」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇できるだけ身の回りにあるイベントを見たり、参加することでイベントの構造を理解することに努めること。

【その他の注意事項】

- ◇授業には必ず電卓を用意すること。スマートフォン等の電卓機能は認めません。

<h1>イベントメディア論</h1>	キタハラ ユタカ 北原 隆
Event Media	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントデザインの世界に進むための基礎知識+その応用を学びます。

イベントには多種多様な形があり、それぞれのケースで求められるものが違います。なるべく多くのケーススタディに触れることでその違いを知り、未知なるものにそれを応用する力を養います。

会場図などを理解し、簡単な図面やスケッチが描けることはイベントの現場ではとても重要なことです。プランニングやデザインのイメージを共有することの大切さを知り、イベントの現場での意思疎通を助ける表現技術を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントデザインに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントの現場での意思疎通を助ける表現技術についての手法を知り、説明できる。	15%
さまざまなイベントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 さまざまなイベントのケーススタディに触れ、その特徴を理解し、説明できる。	15%
イベントデザインに必要な表現力を身につける	日々の課題に対する表現によって評価。 会場図などを理解し、簡単な図面やスケッチが描けることはイベントの現場ではとても重要なことである。その最低限のスキルを身につけ、表現できる。	40%
自らのイベントデザインを組み立てる力を身につける	課題とレポートによって評価。 オリジナル企画のイベントをデザインし表現して、相手に提案し、そのイメージを伝えることができる。	30%
評価の方法 日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	さまざまな会場、さまざまなスタイル
2	イベントデザインの基礎	ラフスケッチ 「てきとう」と「ラフ」は違う
3	色と光について	色が同じにならない理由とは
4	ゾーンニングについて	テーマパークの仕組み その裏側 Qライン
5	導線計画について	お化け屋敷の仕組み 迷わせる仕組み
6	ビジネス DAY と一般 DAY	展示会 ゲームショーやモーターショー
7	限られた人に向けたイベント	制作発表会
8	さまざまな目線を考える	着ぐるみイベント 着ぐるみの使用上の注意
9	舞台とステージの違い	ライブイベント ライブとはどういうことか
10	真っ暗闇の中でのイベント	ダイアログインザダーク 暗闇のエキスパート
11	二回参加できないイベント	脱出ゲーム リピーターが生まれる理由
12	限定品と警察と保健所	物販イベント 食品の取り扱い
13	展示手法と額装	展覧会 アニメ原画展
14	主要出演者が全員プロじゃない	コンベンション 企業イベント 同通と中継
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。
- ◇巻尺および三角スケール。

【履修条件等】

- ◇幅広くイベントに興味を持ち、その仕組みを知りたいと考えていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。
- ◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

博覧会・展示会	オク 奥	マサタカ 正孝
Exposition and Exhibition		応用科目／半期／2単位

【授業概要】

博覧会は、科学技術や新技術の成果を大衆に広く知らしめる内容や、出展企業、団体、政府のPRが多く、企業はあからさまな宣伝は控えます。この博覧会の意義や展示内容・運営手法と観客が期待するもの、効果等について国際博覧会や地方博覧会、食博などの変遷に学びます。一方、展示会は主に企業の販売促進活動としての内容が多いので、会場計画、演出計画、運営計画等を学習することにより、企業と消費者とのコミュニケーション手法について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
博覧会、見本市・展示会に関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 博覧会や見本市・展示会業界とは何かについて答えられる。	20%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答による評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通してプロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。イベントプロデュース発想で、課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 授業時レポート70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本の博覧会の歴史	日本で開催された博覧会
2	博覧会の意義	博覧会は何故開催されるのか
3	展示内容	展示内容の変遷
4	観客が博覧会に期待するもの	多くの観客が何故並ぶのか
5	博覧会の実施運営	博覧会の現場で起こっていること
6	博覧会の成功の秘訣	博覧会の成功に学ぶ
7	見本市・展示会の歴史	見本市・展示会の歴史に学ぶ展示学
8	見本市・展示会の意義	見本市・展示会の狙いと目的
9	展示内容	アピールできる展示内容
10	出展者が展示会に期待するもの	出展者の立場はどのようなものか
11	観客が展示会に期待するもの	観客は何を求めて展示会に来るのか
12	展示会の実施運営	展示会の運営とおもてなし
13	博覧会プロデュース	企画から実施運営までのプロデュース
14	展示会プロデュース	企画から実施運営までのプロデュース
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇授業時に教材を配布。各自ファイルを購入して綴じること。
- ◇PC（パワーポイント、エクセル、ワード）。
- ◇DVD

【履修条件等】

- ◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心をもつこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

観光・コンベンションイベント	オク マサタカ 奥 正孝
Tourism and Convention Event	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

観光イベントは、観光地への誘客イベント、観光地での観光客向けイベント、おもてなしプログラムなど観光地のイベントについても学び観光ツアーなどのイベントの準備・事例をあげながら学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
観光に関する基礎知識を理解する	設問に対する回答による評価。 観光とは、何かについて答えられる。	20%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答による評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通してプロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。イベントプロデュース発想で、課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる	30%
評価の方法 授業時レポート70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	観光資源とは	観光資源とは何かについて理解する
2	自然観光資源 1	国立公園、世界遺産などについて学ぶ
3	〃 2	温泉、山岳などについて学ぶ
4	文化観光資源 1	神社・寺院・教会、城跡・城郭などについて学ぶ
5	〃 2	建造物などについて学ぶ
6	〃 3	年中行事などについて学ぶ
7	〃 4	テーマパーク、食などについて学ぶ
8	〃 5	芸能・興行などについて学ぶ
9	イベントの構成要素	イベントの基本的な構成要素 6W2Hについて学ぶ
10	イベントの分類	分類分けなどについて学ぶ
11	イベントの効果と役割	効果と役割などについて学ぶ
12	イベントを担当する人々	スタッフの仕事などについて学ぶ
13	イベントの計画	観光イベントのプランニングなどについて学ぶ
14	イベントプロデューサー	権利と義務などについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇授業時に教材を配布。各自ファイルを購入して綴じること。
- ◇PC（パワーポイント、エクセル、ワード）。
- ◇DVD
- ◇参考書 必要があれば適時紹介する。
- ◇必要があれば観光庁のHPよりダウンロードしてもらう。

【履修条件等】

- ◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心をもつこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<p>スポーツ・エンタテインメントイベント</p>	<p>サトウ ジュン 佐藤 潤</p>
<p>Sports and Entertainment Event</p>	<p>応用科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

- ・スポーツイベントの全体構造を理解し企画・運営の知識を学ぶ。
- ・スポーツイベントの歴史と現在の状況、今後の動きについて学ぶ。
- ・自分がイベントプロデューサーになった意識で取り組み、授業において意見や疑問を持って積極的に発言する。
- ・イベントを企画・実施するに際し、必要な知識を身につける。とくに企画・実施にあたり必要な法律や規則を十分に理解する。
- ・上記を学ぶにあたり、スポーツイベントの事例を参考に学習していく。
復習をしっかりとすることが肝要。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>スポーツイベントの現状とその構造を理解する</p>	<p>設問に対する回答により評価する。 スポーツ全般に加えてとくにオリンピック、ラグビーワールドカップ、ワールドマスターズの3大イベントについて学ぶ</p>	<p>30%</p>
<p>スポーツイベントのマーケティングを理解する</p>	<p>設問による回答により評価する。 スポーツイベントのマネタイズの仕組みを事例を通して学ぶ</p>	<p>40%</p>
<p>スポーツを取り巻く新しい動きについて理解する</p>	<p>レポートの提出により評価する。 スポーツ行政、スポーツツーリズム、大学スポーツの活性化などの動向について学ぶ</p>	<p>30%</p>
<p>評価の方法 評価の方針 毎回のレポート（授業中の最後に記入）60%、テスト40%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	これから学ぶスポーツイベントの概略を知る
2	スポーツの現状	スポーツの現状をさまざまな数字から読み解く
3	スポーツビジネスⅠ	スポーツの歴史を学ぶ
4	スポーツビジネスⅡ	スポーツビジネスの歴史について学ぶ
5	スポーツビジネスⅢ	スポーツビジネスの構造について学ぶ
6	スポーツイベントⅠ	スポーツイベントの企画・運営について学ぶ
7	スポーツイベントⅡ	スポーツイベントのリスクマネジメントについて学ぶ
8	前半のまとめと復習	スポーツイベントとそのビジネスについて確認する
9	オリンピックビジネス	オリンピックイベントについて学ぶ
10	サッカービジネス	ワールドカップ他サッカーイベントについて学ぶ
11	ラグビー他国際イベント	2019年、2021年の日本開催大型イベントについて学ぶ
12	スポーツとメディア	テレビ他メディアとスポーツの関係について学ぶ
13	スポーツと観光	スポーツツーリズムとコミッションについて学ぶ
14	スポーツと行政	スポーツによる地域活性化について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません

◇参考書：広瀬一郎著『スポーツビジネス論』講義

広瀬一郎著『スポーツマーケティングを学ぶ』

スポーツイベント検定公式テキスト『スポーツイベントで』社会を元気にイベント産業振興協会編集

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞や雑誌、テレビなどで日本と世界の社会情勢やスポーツイベントの動きをチェックしてください。

とくに2020東京オリンピック・パラリンピック関連や2019ラグビーワールドカップのニュースは興味を持ってみてください。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に小レポートを提出してもらいます。

セールスプロモーションイベント	シミズ イチロウ 清水 一郎
Sales Promotion Event	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

入場料を徴収する音楽コンサートのような興行を除けば、イベントの多くは販売促進(セールスプロモーション)を目的に実施されています。流通店舗で行われる商品催事から始まり、その展開形態は多様性に富んでいます。販売促進の目的も、集客動員や使用体験の創出から、イメージ訴求、意識喚起まで幅広く、経済活動の一環として行われているために、社会全般に対する影響力も大きいものです。目的や機能と展開形態で分類し、イベントの社会的な価値を考察します。

全体の流れを百貨店(デパート)の例などを交え、具体的な催事についての理解を深めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
セールスプロモーションの基本を理解する	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーション、販売促進の重要性について答えられる。	20%
セールスプロモーションイベントの実施段階での理解を深める	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーションイベントを実施するために必要な項目を説明できる。	20%
セールスプロモーションイベントの管理項目について説明ができる	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーションイベントにおける時間管理、品質管理、予算・経費管理、リスク管理の4つの重要管理項目について理解できる。	30%
セールスプロモーションイベントの戦略を説明できる	レポートおよびテストによって評価。 上位目的に沿った戦略を立案し、その戦略に沿った手法・手段を選定・開拓し、それを明文化できる。	30%
評価の方法 授業への意欲40%、小テスト30%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	S Pとは何か？	セールスプロモーションという概念とその目的
2	S Pの分類と特性	S Pの種類とそれぞれの特性を理解
3	S Pの基本	基本的な「販売促進策」の概要
4	S P戦略	上位目的を達成するための戦略の構築とは
5	S Pイベントの組織	企画、準備、実施段階に置ける組織と役割を理解
6	S Pイベントの企画	社会のフィールドを意識したイベント企画について
7	S Pの基本	「S Pの基本」について中間テスト実施
8	S Pイベントの歴史	百貨店の誕生とS Pイベント
9	S Pイベントの告知	イベント告知のための広告、広報について
10	S Pイベントの管理	S Pイベントの管理業務とは
11	S Pイベントの実際①	百貨店催事とイベント
12	S Pイベントに実際②	商店街の活性化
13	S Pイベントの実際③	異業種交流イベントについて
14	S Pイベントの実際④	イベントの企画について
15	S Pイベントのまとめ	S Pイベントの有用性について

【使用教材】

◇授業時にテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストおよびレポートにより確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントは社会の動きと無関係ではないので、一週間の出来事について興味をもった事柄とその理由を毎授業時に全員に発表してもらう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<p>イベント特講 オリンピック・パラリンピック</p>	<p>オオヤマ トシエイ 大山 利栄</p>
<p>Special Lecture on Event</p>	<p>応用科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

2020年に「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。

イベントの中でも国際的なビッグイベントの一つ、物理的、経済的な規模が大きいオリンピック・パラリンピックについての理解を深めることを目的とします。

開催決定を受け首都圏を中心にインフラ整備を始め、さまざまな事業が計画され始めています。ひとつの大きなイベントが国家、国民を動かすという好事例の歴史や意義を学ぶことで、イベント管理上のメリット、デメリットを理解することを求めます。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結している本学らしく、本年度も本学教員以外にオリンピック・パラリンピックに精通する外部の有識者を特別講師として招聘し展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>オリンピックの歴史と背景について説明できる</p>	<p>設問に対する回答によって評価。 オリンピックの基本的な概念とその歴史について答えられる。</p>	<p>20%</p>
<p>オリンピック憲章と開催意義について説明できる</p>	<p>設問に対する回答によって評価。 近代オリンピックがスタートした背景とオリンピック憲章についての理解を深める。</p>	<p>20%</p>
<p>オリンピック開催のメリット、デメリットについて理解できる</p>	<p>設問に対する回答によって評価。 特に、2020年東京五輪についての経済効果や国としてのイメージ戦略、過去に起きた事件・事故についての事例について説明ができる。</p>	<p>30%</p>
<p>理想的なオリンピックについて自分の意見を述べることができる</p>	<p>レポートによって評価。 過去のオリンピックについて十分な知識を持ち、その知識を踏まえて理想的なオリンピック像についての考えをまとめられる。</p>	<p>30%</p>
<p>評価の方法 授業態度30%、レポート30%、試験40%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方および注意事項
2	オリ・パラ学の意義	2020年の東京オリ・パラを控え、なぜオリ・パラについて学ぶのかを解説
3	古代オリンピックの歴史と意義	古代オリンピックとは何なのかを検証する
4	リオオリンピックの実際	リオオリンピックの特性と特徴を検証する
5	リオパラリンピックの実際	リオパラリンピックの特性と特徴を検証する
6	オリンピックと経済	オリンピックの経済効果とは
7	スポーツツーリズム	インバウンドの実態と受け入れ態勢について検証
8	2020東京オリンピックの概要	コンパクト・環境・安全等を配慮した施設群の概要
9	オリ・パラとリスクマネジメント	大型イベントにおける警備、保安、運営等のリスクについて
10	オリ・パラ運営の舞台裏	実際にオリ・パラの舞台裏では何が行われているのか
11	オリ・パラとメディア	メディアで変わる、メディアが変えるオリンピック
12	オリ・パラとイノベーション	2020東京大会に求められるイノベーションとは
13	オリ・パラと通信技術	通信技術がオリ・パラを支え、変えてきたことを検証する
14	ロンドンなぜ成功したのか	2020東京が参考とするロンドン大会について検証する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※外部講師の調整次第で内容、順番が変更になることがあります

【使用教材】

- ◇参考書：必要があれば適時紹介
授業時に資料配布

【履修条件等】

- ◇2020東京大会に興味を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇オリンピック関連のニュースについての記事をスクラップする。

【その他の注意事項】

- ◇公開講座として一般受講者も参加します。
- ◇企画監修として杉山茂氏（スポーツプロデューサー／元 NHK スポーツ報道センター長）を招聘予定。

<h2 style="margin: 0;">スマートコミュニティ論</h2>	<small>シヅカ マサノリ</small> 志塚 昌紀
Smart Community	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

地方の時代と言われだして久しい。だが、実情はまだ中央依存であり、地方は過疎化に悩んでいるところも少なくない。コミュニティも（地域社会）もまた、商店街のシャッター街化が深刻な問題となっているように、衰えつつある例が多々みられる。こうした現状を背景に、各地で地域再生への足がかりとして多様なイベントが開催されており、地域と人をつなぐ大きな役割を果たしている。コミュニティが真に自立し、他と連帯しながら活性化すること、それがコミュニティにおけるイベントの意義である。

本授業では理論をただ学ぶだけではなく、グループワークやフィールドワークなどを通じ、コミュニティに関するより実践的な学びと理解を重視する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コミュニティの概念やイベント事例を知る	レスポンスシートや試験などにおいて理解度を評価する。	20%
コミュニティにおける課題を把握することができる	上記に同じ。	20%
課題の分析とその解決への提案	試験やプレゼンテーション等で評価する。	60%
評価の方法 授業毎で実施するレスポンスシート40%・課題プレゼンテーション30%、期末試験30%。コミュニティに対する情報の収集力、洞察、分析、改善へのアイデアを問う。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業内容、進め方の説明
2	コミュニティとは① ～コミュニティの定義	・コミュニティの語源、概念、定義 ・コミュニティの崩壊と再生
3	コミュニティとは② ～コミュニティと地域社会	・公共の担い手としての市民 ・市民参加と協働
4	コミュニティとは③ ～コミュニティとビジネス	・コミュニティ課題を解決するビジネス手法 ・コミュニティビジネスの効果と課題
5	ゲストスピーカー①	
6	スマートコミュニティ事例① ～コミュニティとイベント	・コミュニティ再生のためのイベントづくり ・コミュニティレガシーとしてのイベントの価値
7	コミュニティイベント事例② ～コミュニティづくり③手法	・コミュニティイベントづくりの手法 ・ワークショップの事例と特徴
8	コミュニティイベント事例③ ～コミュニティとボランティア	・コミュニティイベントにおけるボランティアの意義と意味
9	ゲストスピーカー②	
10	コミュニティを調査する①	コミュニティ調査の手法やスキル～資料文献調査、フィールドワーク調査
11	コミュニティを調査する②	自身の属する、あるいは興味をもつコミュニティの課題を調査する
12	コミュニティを調査する③	コミュニティ課題の解決にむけたイベントづくりを考える
13	コミュニティを調査する④	発表に向けた資料づくり
14	成果発表会	イベント提案プレゼンテーション
15	まとめ	

【使用教材】

◇適宜配付する。

【履修条件等】

◇コミュニティに興味を持ち、学ぶ意欲がある学生なら、とくに条件はない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自分が属するコミュニティ、あるいは興味を抱くコミュニティに関する情報収集、視察などをおこなうこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

レジャー・アミューズメント論	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Leisure and Amusement	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

アミューズメントの訳語は「娯楽」である。21世紀は、娯楽を含めた「余暇の時代」と言われることもあるように、生活のなかにゆとりや癒しを求める機運が高まっている。その傾向はますます強まると思える。また、アミューズメントは狭義には機械・エレクトロニクスを駆使した遊戯を指す。身近なゲーム機をみれば容易に理解できるように、もっともハイテクを導入した娯楽の分野でもある。余暇という概念と理論を学び、さらに代表的なアミューズメントである遊園地・テーマパークなどの娯楽の世界を探求する。

なお、本授業は講義での学びを生かして、自分自身で研究テーマを設定やフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
余暇や娯楽の定義や概念、歴史を学ぶ	レスポンスシートや試験などにおいて理解度を評価する。	20%
遊園地・テーマパーク、アミューズメント施設の現状を把握する	上記と同様に、小レポート、あるいは発表等で評価する。確認はプレゼンテーションで行う。	20%
レジャー、アミューズメントの近未来を予想する	試験やプレゼンテーション等で評価する。	60%
評価の方法	授業ごとで実施するレスポンスシート40%、 課題プレゼンテーション30%、 期末試験30%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	余暇と余暇学	余暇の概念と余暇学の立場
2	余暇活動の歴史	レジャー・アミューズメントの歴史とレジャー産業の現状
3	遊園地とテーマパーク	遊園地とテーマパークの定義と現状分析
4	ゲストスピーカー①	
5	アミューズメント事例①	ディズニーランドに学ぶ① ～ディズニーの思想とテーマパークの意義
6	アミューズメント事例②	ディズニーランドに学ぶ② ～戦略としてのテーマパークビジネス
7	アミューズメント事例③	ユニバーサルスタジオジャパンに学ぶ ～アミューズメントの考え方とテーマパーク経営
8	アミューズメント事例④	キッザニア東京に学ぶ ～テーマパークの新たな価値…エデュテメント
9	アミューズメント事例⑤	ハウステンボスに学ぶ ～テーマパークから始まる実験観光都市
10	ゲストスピーカー②	
11	ゲームの世界の課題	ゲームの世界の問題点と今後の課題
12	今後のレジャー・アミューズメント	これからのアミューズメント空間はどのように構築されていくか、想像してみる
13	プレゼンテーション①	研究テーマのプレゼンテーション実施
14	プレゼンテーション②	研究テーマのプレゼンテーション実施
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇適宜配付する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに予習すべき教材はないが、周囲のレジャー施設、アミューズメント機器類に注意を払い、それらの現状や将来に対して想像力を働かせること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ビジネス英語 I	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ビジネス英語Ⅱ	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

簿記技能 I (日商 3 級)	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping I	応用科目／集中／2 単位

【授業概要】

本講義は、2018年度日商簿記3級、6月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記3級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で、講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	問1対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問2対策講座	補助簿全般の解き方、T字勘定を使った解答法
3	問3対策講座	試算表全般の解き方
4	問4対策講座	伝票などの解き方
5	問5対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問1問題演習	問1問題の演習徹底的にやります
7	問2問題演習	問2問題の演習徹底的にやります
8	問3問題演習	問3問題の演習徹底的にやります
9	問4問題演習	問4問題の演習徹底的にやります
10	問5問題演習	問5問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
13	予想問題演習	今回の6月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

*授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記3級6月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

簿記技能Ⅱ（日商2級）	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Bookkeeping II	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2018・2019年度の日商簿記2級（11月・2月）試験合格を目指す者を対象とし、複式簿記のより発展的な内容を整理・確認することを目的とした集中講義である。そのため、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」の履修が終了している、もしくは自身で日商簿記2級受験に向けた学習を行っている必要がある。

簿記検定に合格するためには検定特有の問題の解き方が必要となるため、本講義では検定の解答のテクニックも含め、検定試験の各問の傾向を理解し、検定試験の問題に慣れることを目的としている。受講者の苦手な設問に対し個別指導などを行うが、本講義を受けるだけで検定試験に合格できるわけではないという点には注意が必要である。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用されるものである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解すること	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答によって評価。 試験範囲の仕訳は確実に解けるように、しっかり理解することが必要。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答によって評価。 原価計算の仕組みを理解し、計算に慣れる。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答によって評価。	30%
評価の方法	全講義回数数の3分の2以上の出席を前提として、出席（貢献度）10%、期末試験90%。 ※期末試験に関しては授業中に説明をする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	問 1 対策講座	仕訳全般
2	問 2 対策講座	特殊仕訳帳、伝票会計
3	問 3 対策講座	精算表・本支店会計
4	問 4 対策講座	費目別・部門別計算
5	問 5 対策講座	総合原価計算・標準原価計算
6	問 1 問題演習	演習
7	問 2 問題演習	演習
8	問 3 問題演習	演習
9	問 4 問題演習	演習
10	問 5 問題演習	演習
11	過去問演習(1)	過去に出題された問題から演習および解説
12	過去問演習(2)	過去に出題された問題から演習および解説
13	予想問題演習	2018年11月に行われる試験の予想問題演習
14	検定試験直前特訓	11月の試験に向けて、個別指導
15	検定試験解説	検定試験の解説

※状況によっては多少前後する場合もある。なお、授業日程等については開講時に指示する。

【使用教材】

◇開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「商業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「商業簿記Ⅱ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅰ」（他学科科目）および「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）をすでに履修済み、もしくは日商簿記2級レベルの商業簿記・工業簿記の知識を事前に得ていることを前提とする。まったく知識のないままの受講は不可であるので留意のこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。毎回の復習に力点を置くことが望ましい。

【その他の注意事項】

◇受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

◇本講義は集中講義につき、週に3～4回、オフィスアワーの時間帯（16：30～）に開講予定である。時間帯に注意のこと。

◇授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

販売技術	ヒノ タカオ 日野 隆生
Sales Techniques	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

当科目は日本商工会議所が実施する資格「販売士（リテールマーケティング）3級」の全員資格取得を目標とし、併せて教養人として社会に通じる人格形成にも資していく授業です。販売業務は究極の“人”を必要とする職種であり、販売スキルは社会人には欠くことのできない資質です。講義は、テキストプラス適宜資料を配付して、理論と実務のスキルが身につくように、資格取得を確実にするために、演習問題も繰り返すなど試験対策も実施。社会・企業で尊重される人材育成を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費動向と関連づけ 流通を理解し、その因果関係を説明できる	現在の流通の仕組みや経営とは何かを理解し、消費動向やその背景対応する流通業の存在価値や意義、施策、システムなどを関連づけて説明できるようになる。	40%
“販売”の基礎を体系的に理解し、業務を理論的に実践できるスキルを得る	テキストは5科目あり、それらを通じ、その意味するところを十分理解して、資格試験の免除条件となる1科目「販売・経営管理」の予備試験に合格し、他4科目の概要の理解と実践に役立てるまでのスキルを涵養する。	40%
販売士資格を理解し、その有用性を語る事ができる	公的資格「販売士」の趣旨と意義を理解し、3級の位置づけを説明でき、社会での有用性を第三者に説得できる。	20%
販売士3級資格を取得する	単位取得は勿論、講義の反復復習により、2月の日本商工会議所の資格試験に自信を持って望み、資格を取得する。	
評価の方法 80%以上の出席を前提として、出席態度で20%、試験80%の評価。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	「小売業の種類」小売業の基本的役割	10	仕入計画・在庫管理・販売管理の基本的役割
2	形態別小売業の基本的役割	11	価格設定・利益追求の基本知識
3	チェーンストアの基本的役割	12	「ストアオペレーション」の基本的役割
4	商業集積の基本的役割と仕組み	13	ディスプレイの基本的役割
5	「販売・経営管理」販売員の基本業務	14	作業割当・人的販売の基本的考え方
6	販売員の法令知識	15	「マーケティング」の基本的考え方
7	販売事務と計数管理の基本知識	16	顧客管理・販売促進の基本的役割
8	売場の人間関係・店舗管理の基本的役割	17	商圏の設定と出店の基本的考え方
9	「マーチャンダイジング」商品の基本知識	18	売場づくりの基本的考え方

【使用教材】

◇テキスト：『販売士養成講習会3級テキスト』（2分冊）日本商工会議所編

【履修条件等】

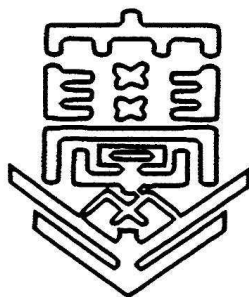
- ◇販売士検定3級合格のために授業の予習・復習（サブノートを作成）が必須。
- ◇出席率（授業参加度）80%以上
- ◇各自「問題集」により、検定合格対策する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストを通読し、キーワードをチェック（理解）する。

【その他の注意事項】

- ◇5月16日（水）開講～11月28日（水） 全18回
- ◇期間内に「予備試験（販売・経営管理）」を実施する。



東京富士大学

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-1

入 試 広 報 部 TEL 03-3368-0351

キ ャ リ ア 支 援 部 TEL 03-3362-8479

学 生 支 援 部

学生支援担当 TEL 03-3362-2252

留学生担当 TEL 03-3368-1761

学 務 部

学務課 TEL 03-3368-2154

図書館 TEL 03-3368-8826